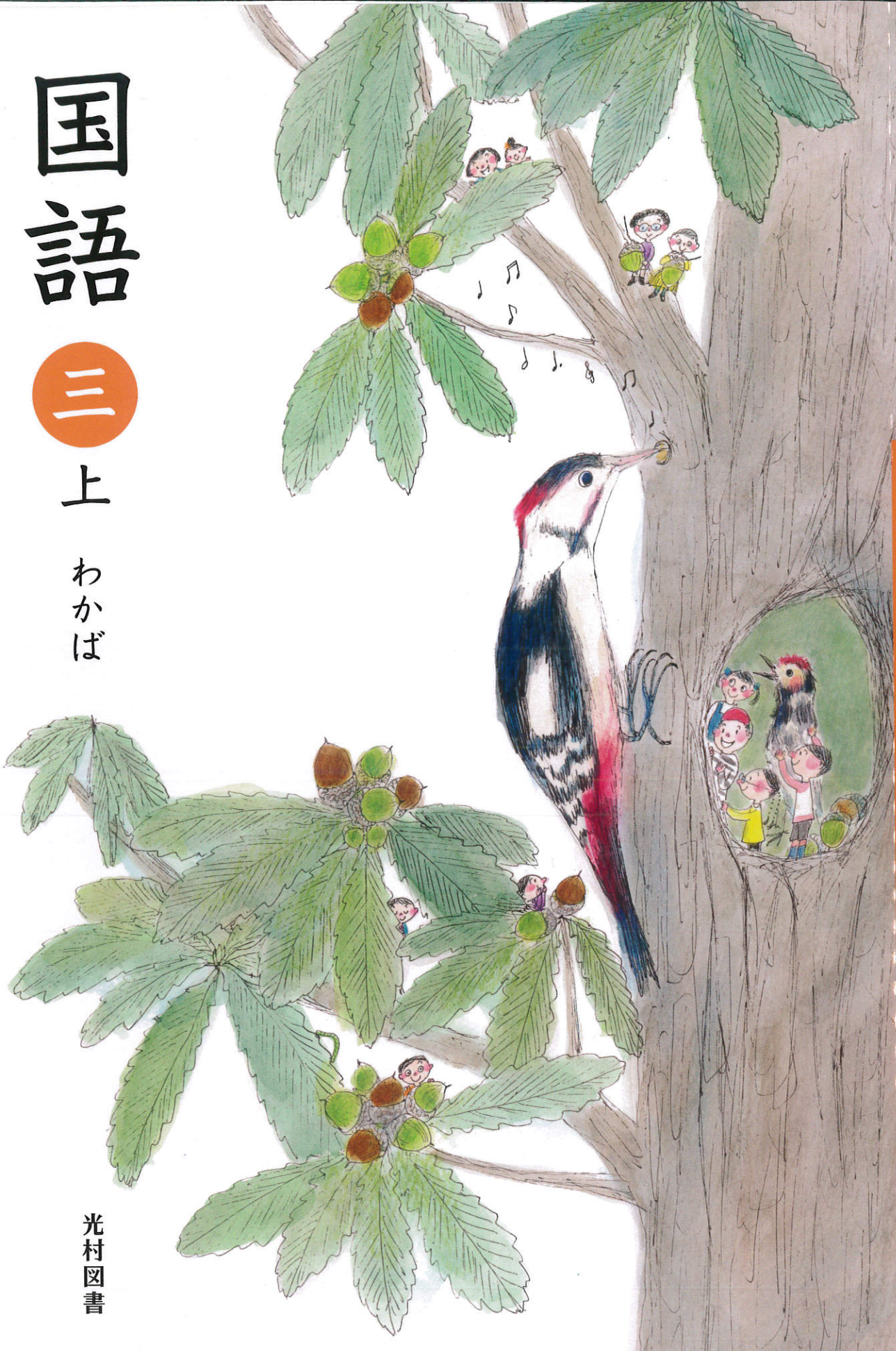


国語

三

上

わかば



光村図書



この本で学習するみなさんへ

この本では、次のしるしが使われています。



話したり聞いたりしましょう。



書きましょう。



読みましょう。



言葉の学習をしましょう。



おぼえておきましょう。他の学習や生活の中でも役に立ちます。



国語の学習に用いる言葉をたしかめましょう。



学習を進めるときに気をつけることなどをまとめています。



音声を聞いて、学習しましょう。



学習に関係のあるページをしめています。

文字や言葉のしるし

○ 新しく学習する漢字。

● 読み方が新しい漢字。
音はかたかなで、訓は平かなでしめしてあります。

◆ とくべつな読み方を
する言葉。

▲ 読み方に気をつける
かたかな。



このしるしがあるところは、学習の助けとなるしりようがあります。読み取るときには、かならず、先生やおうちの方といっしょに行いましょう。

国語

三

上

わかば



わかばを見ると

むねが晴れ晴れする。

ぼくら子どもも ほんとは

人間のわかば。

天が、ほら。

あんなに晴れ晴れしている。

ぼくらを見まもって……。

目次 もくじ

三年生の国語の学びを見わたそう……………4

📍 **じょうほう** 分ける・くらべる……………9

👤👤 よく聞いて、じこしようかい **話す・聞く**……………10

👤 **どきん** 谷川 俊太郎 **読む**……………12

つづけてみよう……………14

① 読んで、そうぞうしたことをつたえ合おう **読む**

きつつきの商売 林原 玉枝……………15

本は友だち 図書館たんていだん……………30

🗨️ **言葉** 国語辞典じてんを使おう……………32

🗨️ **言葉** 漢字の音と訓おん くん……………38

👤👤 **もっと知りたい、友だちのこと** **話す・聞く**……………40

📄 **コラム** きちんとつたえるために……………44

② 段落だんとその中心をとらえて読み、かんそうをつたえ合おう **読む**

👤 **言葉で遊ぼう** 小野 恭靖……………47

こまを楽しむ 安藤 正樹……………50

📍 **じょうほう** 全体と中心……………59

👤 **気もちをこめて「来てください」** **書く**……………60





③ 登場人物のへんかに気をつけて読み、感想を書こう **読む**

まいごのかぎ 齊藤 倫……………65

俳句を楽しもう……………85

言葉 こそあど言葉を使いこなそう……………88

じょうほう 引用するとき……………90



仕事のくふう、見つけたよ **書く**

コラム 符号など……………97

本は友だち

はじめて知ったことを知らせよう……………100

鳥になったきょうりゅうの話 大島 英太郎……………105

詩を味わおう **読む**

わたしと小鳥とすずと／夕日がせなかをおしてくる……………112



山小屋で三日間すこすなら **話す・聞く**……………116

ポスターを読もう **読む**……………118



言葉 へんとつくり……………122

言葉 ローマ字……………128

きせつの言葉 春 36 夏 98 漢字の広場 ① 35 ② 46 ③ 64……………64



ひろく 学習を広げよう

「たいせつ」のまとめ……………130

知りたいことの見つけ方、調べ方……………134

手紙の書き方……………136

げんこう用紙の使い方……………138

ひらがなとかたかな……………140

本の世界を広げよう……………141

とかげとぞう……………144

これまでに習った漢字……………148

この本で習う漢字……………152

言葉のたから箱……………157



国語の学びを 見わたそう

これから国語の学習しゅうが始はじまります。
みんなで考え、学びを深ふかめていくために、学習の
進すすめ方と、これから学ぶことをたしかめましょう。

学習の進め方

はじめに

「やってみよう。」
「どうしたらいいかな。」
「どうして——だろう。」



読む

書く

話す・聞く



ふりかえる

「——が分かった。」「分からない。」
「知っている言葉ことばがふえた。」
「もっとよく考えてみたい。」



学習や生活にいかす


「——のときに、
いかすことができそう。」
「この言葉つかを使ってみよう。」



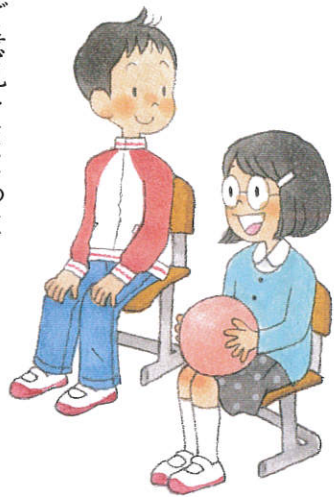
三年生で学ぶことをたしかめたり、学習したことを
ふり返^{かえ}ったりして、言葉の力を高めていきましよう。

よく聞いて、じこしようかい…………… 10

もっと知りたい、友だちのこと…………… 40

 話を聞いて、しつもんする


山小屋で三日間すごすなら…………… 116



はんで意見をまとめよう

 役わりにおうじて話し合う

わたしたちの学校じまん

 相手や目的を考え、理由をあげて話す

司会

二年生の学びをたしかめよう

決める
集める

- つたえたいことを、「いつ」「どこ」「だれ」「何」に気をつけて、くわしく思い出す。

じゅんび
する

- 「はじめ」「中」「終わり」など、話のじゅんじよを考える。

話す・聞く

話す

- 話さないようや相手に合わせて、声の大きさや速さをくふうする。
- 大事なことは何かを考えて話す。
- 大事なことを落とさずに聞く。

話し合う


- 友だちの話につなげて話す。

10

つなげる

- 話したり聞いたり話し合ったりして、気がついたことをつたえ合う。

気もちをこめて「来てください」…………… 60


 あんないの手紙を書く

仕事のくふう、見つけたよ…………… 92

 組み立てを考えて、ほうこくする文章を書く

句読点


食べ物のひみつを教えます

 れいをあげて書く

下 たから島のぼうけん

 物語の組み立てを考えて書く

これがわたしのお気に入り

 感想をつたえ合う



二年生の学びをたしかめよう

決める
集める

- 見たり聞いたり思い出したりして、書くことを決める。

- 書くもの、短^{みじか}い言葉や文でメモし、書きたいことをはっきりさせる。

5

組み立てる

- 集めたことを、じゅんじよよくならべる。
- 「はじめ」「中」「終わり」のまとまりに組み立てる。

- まとまりに気をつける。

- 書こうとすることが読む人につたわるように、くわしく書く。

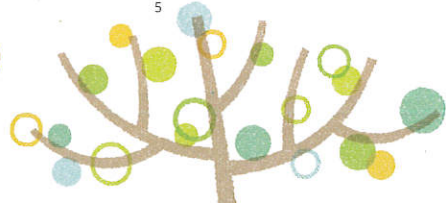
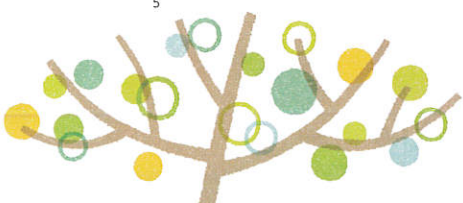
- 書いたものを読み返し、まちがいや読みにくいところを直す。

10

書く

- 読み合って、思ったことなどをつたえる。
- 自分の文章のよいところを見つける。

15





せつめいする文章 しょうぶ

言葉で遊ぼう

こまを楽しむ

📖 段落とその中心をとらえる

段落

問い

50

ポスターを読もう

キャッチコピー

118

すがたをかえる大豆

📖 話題と、れいの書かれ方をとらえる

下

ありの行列

📖 せつめいする文章を読んで、感想をつたえ合う

物語・詩 ものがたり

どきん

12

きつつきの商売

15

📖 場面のようすや、登場人物の気もちを

そうぞうする

場面

まいごのかぎ

65

📖 登場人物のへんかに気をつけて読む

わたしと小鳥とすずと
夕日がせなかをおしてくる

連

112

ちいちゃんのかげおくり

📖 物語に対する感想をもつ

会話文・地の文

三年とうげ

📖 組み立てをとらえる

詩のくふうを楽しもう

モチモチの木

📖 登場人物のせいかくをとらえる

語り手



二年生の学びをたしかめよう

せつめいする文章

・時間を表す言葉や

じゅんじよを表す

言葉に気をつけて

読む。

・絵や写真と文章を

合わせて読む。

とらえる

物語・詩

・登場人物のした

ことや言ったこと

に気をつける。

・題名やさし絵を手

がかりにする。

5

せつめいする文章

・大事な言葉や文が

何かを考える。

・したいことに合う

ように、文章の言

葉をえらんでまと

める。

ふかめる

物語・詩

・まわりの様子や、

登場人物がしたこ

とを、そうぞうする。

・登場人物が、どう

してそのことを

言ったりしたりし

たかを考える。

10

15

まどめる

・書かれていることと、自分の知っているこ
とをつなげて読む。

ひろげる

・感じたことや思ったことを、友だちや先生
につたえる。

受けつがれる言葉

俳句を楽しもう

きせつの言葉

春・夏

85

読書

図書館

たんでいだん

はじめて知ったこと

を知らせよう

📖 図鑑や科学

読み物を読む

鳥になった

きょうりゅうの話

105

言葉 

言葉の使い方

国語辞典を

使おう

📖 修飾語を使って書こう

漢字の音と訓

こそあど言葉を

使いこなそう

へんとつくり

ローマ字

漢字の広場①③

128 122 88 38 32

下

漢字の意味

カンジーはかせの

音訓かるた

つたわる言葉で表そう

コンピュータの

ローマ字入力

漢字の広場④⑥

128 122 88 38 32

じょうほう

分ける・くらべる

全体と中心

引用するとき

下

分ける・くらべる

科学読み物での調べ方

9 59 90

引用

奥付



じょうほう

考えるときにつかおう

分ける・くらべる

分ける

たくさんのものごとは、な
かまに分けると、せいりする
ことができるよ。



学校にいる生きもの

こうていにいる生きもの

ち
よう

あり

ば
った

教室にいる生きもの

ハム
スター

め
だか

まとまりごとの
名前

ふせんやカードに
書き出したものごと

「山小屋で三日間すごすなら」

117ページ

5

くらべる

くらべると、ものごとの同じ
ところやちがうところを、せい
りすることができるよ。

夏と冬のすきなところ

●食べもの	あそび	夏
●夏みかん	●虫とり	●プール
●なす	●海	
●すいか		
●りんご	●雪あそび	冬
●はくさい	●なわとび	
●みかん	●かるた	

どんな点を
くらべるか

ものごと
くらべる

「ポスターを読もう」

119ページ

「きつつきの商売」

26ページ

5





こども達のじゅんびつてい

よく聞いて、

じこしようかい

みなさんは、どんなものが好き
ですか。わになって、じゅん順番にじこ
しようかいをしましょう。

友だちが好きなものを、たくさ
ん聞けるといいですね。

5



1 すきなものを一つ考えて
おこう。

ぼくは、サッカーが
すきなんだ。



2 わになって、先生から順に
じこしようかいをしよう。

山のぼりがすきな
木村まり子です。



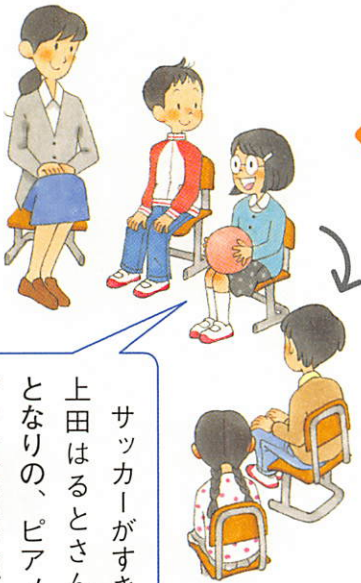
話す人が分かるように、目じる
しになるものをもつといいですね。

5

3 前の人の話をくりかえしてから、
自分のことを話そう。



山のぼりがすきな
木村まり子先生
のとなりの、サッカー
がすきな上田はると
です。



サッカーがすきな
上田はるとさんの
となりの、ピアノが
すきな高山みおです。

- じこしようかいをしてい
る人の話をよく聞く。
- 話すときは、みじかいこ
とばで、はっきりと話す。

もつと楽しもう

- すきなものを二つにして話す。
〈れい〉

「本とりんごがすきな寺田ゆな
さんのとなりの、歌と体育が
すきな細川しゅんです。」

- これからしたいことを話す。

友だちがすきなものを
聞いて、どう思いましたか。



詩を楽しもう

どきん

谷川 俊太郎
たにかわ しゅんたろう

鎌田 光代 絵
かまた みつよ

さわってみようかなあ つるつる

おしてみようかなあ ゆらゆら

もすこしおそうかなあ ぐらぐら

もいちどおそうかあ がらがら

たおれちゃったよなあ えへへ

いんりよくかんじるねえ みしみし

ちきゆうはまわってるう ぐいぐい

かぜもふいてるよお そよそよ

あるきはじめるかあ ひたひた

だれかがふりむいた！ どきん

5

学習

●ことばのちようしを楽しみながら、音読しましょう。「つるつる」「ゆらゆら」などのようすを、体のうごきであらわしてもいいですね。



○詩シ

○学習
シユウ

!

強めたり、おどろき
などをあらわしたり
するときにつかうこ
とがある。

この本、読もう

どきん



つづけてみよう

日記を書こう

生活の中での気づきを、日記に書きましよう。長くつづけられるように、くふうしましょう。

こんなことを書こう

- 見つけたものや、こと
- 友だちやかぞくとの話の中で、出てきたことば

● 本を読んでいて出会ったことば

● 「春らしいな」「夏が近づいてきた」。などのように、きせつをかんじたこと など

日記に書いたことを、朝の会などの時間に、みんなに知らせてもいいですね。

10

5

四月十日（金）

朝、学校に行くときに、つつじが少しさいているのを見つけました。毎年、たくさんつつじが、とてもきれいにさくところですよ。まんかいになるのが、今から楽しみです。

5





読む

読んで、そうぞうしたことを
つたえ合おう

きつつきの商売

「きつつきの商売」は、森にすむ動物たちの物語です。きつつきは、森でどんな商売をしているのでしょうか。



これまでの学習

 二年生の学びをたしかめよう
(物語・詩)……………

7ページ

1

きつつきの商売



きつつきが、お店を開きました。

それはもう、きつつきにぴったりのお店です。

きつつきは、森中の木の中から、えりすぐりの木を見つけてきて、かんばんをこしらえました。

かんばんにきざんだお店の名前は、こうです。

おとや

それだけでは、なんだか分かりにくいので、きつ

林原 玉枝 はやしばら たまえ 作
村上 康成 むらかみ やすなり 絵

5

○開く ひらく

●物語 ものがたり

○動物 ドゥブツ

○商売 ショウバイ

つきは、その後に、こう書きました。

「できたての音、すてきない音、お聞かせします。四分音符ぶ一ここに
つき、どれでも百リル。」

「へええ。どれでも百リル。どんな音があるのかしら。」

そう言って、まっさきにやって来たのは、茶色い耳をぴんと立てた野
うさぎでした。野うさぎは、きつつきのさし出したメニューをじっく
りながめて、メニューのいちばんはじっこをゆびさしながら、

「これにするわ。」

と言いました。

ぶなの音です。

10

「四分音符分、ちょうだい。」

「しょうちしました。では、どうぞこちらへ。」



5

四分ブ音符

きつつきは、野うさぎをつれて、ぶなの森にやって来ました。

それから、野うさぎを、大きなぶなの木の下に立たせると、自分は、木のとっぺん近くのみきに止まりました。

「さあ、いきますよ、いいですか。」

きつつきは、木の上から声をかけました。野うさぎは、きつつきを見上げて、こっくりうなずきました。

「では。」

きつつきは、ぶなの木のみきを、

くちばしでカいっばいたたきました。

コーン。

ぶなの木の音が、ぶなの森にこだましました。

10



5

野うさぎは、きつつきを見上げたまま、だまって聞いていました。
きつつきも、うっとり聞いていました。

四分音符分よりも、うんと長い時間がすぎてゆきました。

2

ぶなの森に、雨がふりはじめます。

きつつきは、新しいメニューを思いつきました。

ぶなの木のうろから顔を出して、空を見上げていると、

「おはよう。きつつきさん。」

「何してるんですか。きつつきさん。」

木の下で、声がしました。

見下ろすと、ぶなの木のねもとに、野ねずみの家族が、みんなできつつきを見上げています。

家族^{ゾク}



木のうろ
木のみきの中が、空
になっているところ。

たちつぼすみれの葉っぱのかさをかたにかついで、上を見上げているので、みんな、顔中びしょぬれでした。

「おとやの新しいメニューができたんですよ。」
きつつきは、ぬれた頭をぶるんとふって、言いました。

「へえ。」

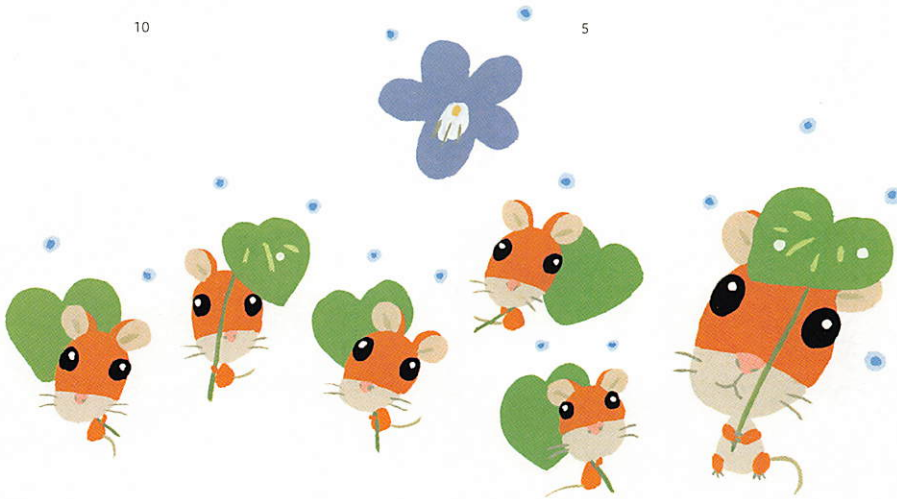
「今朝、できたばかりの、できたてです。」

「へえ。」

「でもね、もしかしたら、あしたはできないかもしれないから、メニューに書こうか書くまいか、考えてたんですよ。」

10

5



◆
今
け
朝

○葉は
っぱ



たちつぼすみれ

「へえ。じゃあ、とくべつメニューってわけ。」

「そうです。とくとく、とくべつメニュー。」

「そいつはいいなあ。ぼくたちは、うんがいいぞ。それで、その、とくとく、とくべつメニューも、百リル。」

「いいえ。今日のは、ただです。」

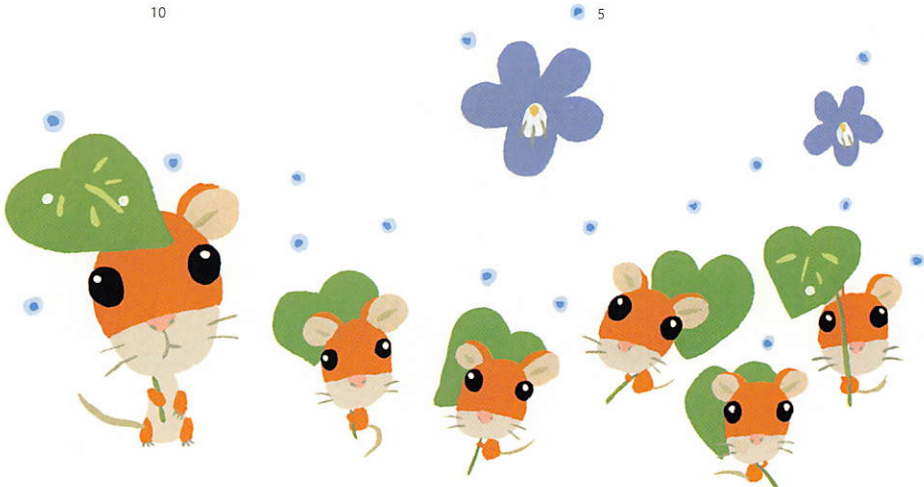
「よかった。ますますうんがいいぞ。ここに、

おとやが開店して、すてきない音を聞かせてもらえるってことは、もうずいぶん前から聞いてたんだけどね。今日やっと、はじめてみんなで来てみたんですよ。」

「朝からの雨で、おせんたくができないもので

10

5



◆きょう
今日

◆カイ
開店



すから。」

母さんねずみが言うど、

「おにわのおそうじも。」

「草の実あつめも。」

「草がぬれてて、おすもうもできないよ。」

「かたつむりたちは、できるけど。」

「かたつむりじゃなくて、あまがえるだってば。」

「どっちもだよ。」

子どもたちも、口々に言いました。

「だから、ひとつ、聞かせてください。」

野ねずみの家族は、そろって、うれしそうに言いました。

「しょうちしました。」

10

5

○実み

々

同じ字をかさねると
きにつかうしるし。
「おとり字」などと
いう。

◆
母^{かあ}さん

きつつきは、木のうろから出て、野ねずみたちのいる場所にとび下りました。

「さあ、しずかにしなさい。おとやさんの、とくとく、とくとくメニユーなんだから。」

野ねずみは、野ねずみのおくさんと二人で、ぺちやくちや言ってる子どもたちを、どうにかだまらせてから、きつつきをふりかえって言いました。

「さあ、おねがいをいたします。」

「かしこまりました。」

葉っぱのかさをさした十ぴきの子ねずみたちは、きらきらしたきれいな目を、そろってきつつきにおけました。

「さあ、いいですか。今日だけのとくとくな音です。お口をとじて、

目をとじて、聞いてください。」

みんなは、しいんとだまって、目をとじました。

目をとじると、そこら中のいろんな音が、

いちどに聞こえてきました。

5

ぶなの葉っぱの、

シャバシャバシャバ。

地面からの、

パシパシピチピチ。

葉っぱのかさの、

パリパリパリ。

そして、ぶなの森の、

10



●地ジ
○面メン

ずうっとおくふかくから、

ドウドウドウ。

ザワザワザワ。

「ああ、聞こえる、雨の音だ。」

「ほんとだ。聞こえる。」

「雨の音だ。」

「へえ。」

「うふふ。」

野ねずみたちは、みんな、にこにこなずいて、それから、目を開けたりとじたりしながら、ずうっとずうっと、とくべつメニューの雨の音につつまれていたのでした。

5



10

•開^あける

林原 玉枝

一九四八年、ひろしま広島

県生まれ。作家。「森

のお店屋さん」「ふ

しぎやさん」などの

作品がある。



見通しをもとう

読んで、そうぞうしたことをつたえ合おう

- 場面のようにすを思いうかべながら、音読しましょう。
- 登場人物のしたことや言ったことなどから、気もちを考えましょう。

トウジョウウ
登場人物

トウジョウ
場面

物語の中の、ひとまとまり。

159ページ

とらえよう

- 「きつつきの商売」という物語は、「1」と「2」の二つの場面に分かれています。
- それぞれの場面の登場人物や、書かれているようすをせいりしましょう。
- それぞれの場面について、書かれているようすを思いうかべながら音読しましょう。
- 「きつつき」が聞かせた音について、書かれていることをもとにそうぞうしましょう。
- 何の音か。
- どんな音か。

1 せいりするときのれい

場所・天気などのようす	1	2
登場人物		
登場人物がしたこと		

「分ける・くらべる」

9ページ

2 音読のしかた

音読するときは、つぎのことに気をつけましょう。



ふりかえろう

- 知る
- 読む
- つなぐ

どんなことに気をつけて音読しましたか。
 何に気をつけて、場面のようすや登場人物の気もちを考えましたか。
 場面のようすをそうぞうしながら、もういちど読みたい物語はありますか。

出来事できごと
 キョウジャク
 ●強
 ●弱
 ●間ま

ひろげよう

●「3」の場面のないようすを、友だちとしようかいし合いましょう。そして、「いいな」「おもしろいな」と思ったことを、つたえ合いましょう。

10

まとめよう

●あなたが、「きつつきの商売」の「3」の場面を作るなら、どのような物語にしますか。登場人物や場所・天気などのようす、「きつつき」が聞かせる音や出来事などを、かんたんにノートに書きましょう。

3

5

ふかめよう

●音を聞いて、動物たちはどんな気もちになったでしょう。したことや言ったこと、音を聞いた後のようすなどから考えて、友だちと話しましょう。

3 ノートのれい

- 登場人物のようすや、気もちをそうぞうする。
- 声の強弱はやさ、高さや、間のとり方を考える。

登場人物	場所や天気など	音	出来事など
<ul style="list-style-type: none"> ●店の人——きつつき ●おきやく——たぬき（二ひき） 	<ul style="list-style-type: none"> ●森のおく ●明るい月夜 	<ul style="list-style-type: none"> ●木をたたたく、元気な、「ゴツゴツ」という音。 	<ul style="list-style-type: none"> ●音を聞いていたたぬきたちが、楽しくなっておどりだす。

10

5



たいせつ

場面のようすや、登場人物の
気もちをそうぞうする

つぎのような言葉に気をつけて、よ
うすや気もちをそうぞうしましょう。

- したことをあらわす言葉
- 言ったことをあらわす言葉
- 気もちをあらわす言葉



いかぞう

物語を読んで登場人物の気もちをそう
ぞうするときには、気もちをそのままあ
らわしている言葉のほかにも手がかりが
ないかを考えましょう。

10

5

この本、読もう



読んだことのある物語から、ほかに読
みたい物語を見つげるきっかけをさがし
てみましょう。

登場人物からつなげる

登場人物が
動物のお話を
読もう。

登場人物が
お店を開いて
いるお話を読
みたいな。

えがかれている場所から広げる

森で、何か
がおこるお話
をさがしてみ
よう。

森ではなく
野原でも、楽
しいお話がな
いかな。

5

ひろく

「とかげとぞう」

144ページ

ことば
言葉



うさぎのなぞなぞ屋^や
 リナが見つけたのは、赤い「？」マークのかんばんの店「なぞなぞ屋」。店の中をのぞいてみましょう。

キツネのまいもん屋

ひさしが、キツネのまいもん屋(だ)がし屋(で)くじを引いたら、大当たり。大きな丸いつつみをもらいました。

あらしのよるに

あらしの夜に出会ったヤギとオオカミ。ヤギはオオカミのごちそうだけれど、友だちになれるでしょうか。



風の草原
 風や雲、水などが生まれるトガリ山のとっぺんを目ざし、トガリイはテントウムシのテントとたびに出ます。

15

10

5

日づけ	読んだ本	書いた人
4月21日	ともだちや	うちだりんたろう 内田麟太郎
<p>〈ひとこと〉</p> <p>おおかみくんが、実はやさしいところがいいなと思った。</p> <p>(おすすめ度 ★★★)</p>		

本を読んだら、きろくをつけましょう。後から思い出すときや、もつと読みたい本をさがすときに、やくに立ちます。

「おすすめ度」のらんは、友だちにすすめたい気持ちを、★の数であらわしましょう。

(★★★★ / ★★★ / ★)

• 実は

登
トウ
のぼる

事
シ
こと

物
モツ
もの

開
カイ
ひらく
あける

族
ゾク

葉
ハ
は

実
ミ
みる

所
シヨ
ところ

面
メン

本
は
友
だ
ち

図書館たんていだん

図書館の本は、ないようごとに、番号で分けてならべられています。

あなたの学校の図書館では、どこに、どんなないような本があるでしょうか。



■ 本の分類のしかたのれい

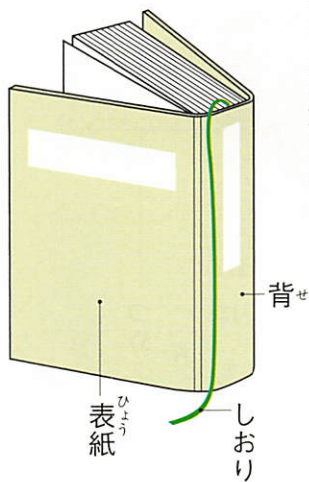
番号	ないよう
0	しらべるための本
1	ものの考え方や心についての本
2	むかしのことや ちいきの本
3	社会のしくみの本
4	しぜんにかかわる本
5	ぎじゅつやきかいの本
6	いろいろなしごとの本
7	げいじゅつやスポーツの本
8	言葉の本
9	文学の本

番号 ゴウ 図書館 カン





本のつくりを知ろう



- 詩の本。
 - サッカーのルールが分かる本。
 - 草花のそだて方をしらべられる本。
- ▼グループで学校図書館の地図を作り、どのたなに、どんなしゅるいの本があるかをしらべましょう。
- ▼つぎの本が、どのたなにがあるかをよそうして、たしかめましょう。

国語辞典じてんを使おう

「深い青」の「深い」って、
どういう意味かな。



国語辞典は、言葉の意味、言葉の使い方、漢字での書きあらわし方などを知りたいときに使います。

では、「深い」という言葉を辞典で調べてみましょう。

国語辞典のれい

はしら

そのページにある、
さいしよとさいごの見出し語がのっています。
長い言葉は、
とちゅうまで
しか書かれな
いこともあり
ます。



つめ
「あ」のところに
は、「あ行(あ・い・
う・え・お)」を一字
目とする言葉がのっ
ています。

966

ぶか / **ぶかぶん**

ぶか【部下】名 ある人の下で、命令や指示を受けて働く人。対上司

ぶかい【不快】名 形動 さいいやな感じがして、おもしろくないこと。例 不快な顔をする。

ふかい【深い】形 ①表面または入り口から、底やおくまでの距離が長い。例 傷が深い。対浅い ②程度が十分などところまで達している。例 深い知識 / 愛情が深い。

対浅い ③色がこい。例 深い青色。対浅い ↓しん【深】

ふか / **ふかち**【付加価値】名 生かすこと。例 付加価値を生かす。対浅い

ふか / **ふか**【不覚】名 形動 ①思わぬこと。例 不覚のなみだを流す。断をして、思わぬ失敗をす。例 不覚にも気がつかなかった。

言葉の意味

いくつかの意味がのっていることもあります。

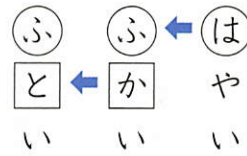
言葉の使い方

その言葉を使ったみじかい文がのっています。



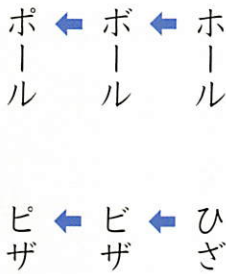
見出し語の見つけ方

見出し語は、五十音順じゅんにならんでいます。
「ひらがなとかたかな」
140ページ



一字目をくらべる。
一字目が同じときは、
二字目をくらべる。

・「は・ひ」のような清音せいの後に「ば・び」
のような濁音だく、濁音の後に「ぱ・ぴ」の
ような半濁音の順でなっています。



・「シール」「プール」のようなのはす音
がある語は、「しいる」「ぶうる」のよ

うに「あ・い・う・え・お」におきか
えられて、なっています。

カード ↓ かあど ゲーム ↓ げえむ
ゴール ↓ ごおる

文の中で、いろいろに形をかえる言葉
があります。国語辞典では、ふつう、左
の でかこんだ形が、見出し語
です。

かかない かきます かく かくもの
かけば

ふかかろう ふかかった ふかくなる ふかい ふかい海
ふかければ

しずかだろう しずかだった しずかで しずか しずかに
しずかな夜 しずかならば

調しらべる 漢カン字 意イ味 深ふかい 使つかう

1 国語辞典を使って、つぎの言葉はど

ちらが先に出ているか、調べましょう。

・「じゆう（自由）」と「じゆう（十）」

・「くらす」と「クラス」

・「バレエ」と「バレエ」

2 線の言葉を国語辞典で調べ、い

くつかある意味のうち、どれが当て

はまるか考えましょう。

・温かいあま酒を出す。

・算数の問題をとく。

・コップの内がわのよごれをとる。

・人形を友だちにあげる。

10

5

3 つぎの文章のまちがいを見つけれ

ましょう。また、には、（）

の中のどの言葉が入るでしょう。国

語辞典を使って、考えましょう。

きのう、おばあちゃんに合いに
いきました。えきからはさか道で
すが、なので平気でした。
（なだらかなめらかのびやか）



書いた文章の言葉や漢字を見直すときに、
国語辞典を使いましょう。

10

5

- 使 つかう
- 深 ふかい
- 意 い
- 味 あじ
- 漢 カン
- 調 しらべる
- 由 ユウ
- 温 あたたかい
- 酒 さけ
- 問 モン
- 題 ダイ
- 章 ショウ
- 平 へい

- 自由 ユウ
- 温かい あたたかい
- あま酒 あまざけ
- 問題 モンダイ
- 内がわ うちがわ
- 人形 ギョウ
- 文章 ショウ
- 平気 へい



漢字の広場

2年生で
習った漢字

1

絵の中の言葉を使って、動物園のようすを文に書きましょう。
〈れい〉くじやくが、きれいな羽を大きく広げています。



春のくらし

みどり

内田 麟太郎
うちだ りんたろう

みどり まみどり

こいみどり

はるの のやまは

よりどりみどり

みどりの ことり

みどりに かくれ



5

生活の中で、春らしさを感じることはありませんか。みの回りで見つけた、春をかんじたものについて書きましょう。

土曜日に、家でさくらゆをのみました。おゆの中にさくらの花がさいたみたいでした。ほんのりいいにおいがして、春だなあと思いました。

◆ 春には、「新」や「春」がつくやさいが食べられます。みずみずしく、やわらかいとされています。

新玉ねぎ

新じゃが

春キャベツ





めばえ

たねまき

なえ

さがせど さがせど
こえばかり



たらめ

ぜんまい

わらび

ふき

よもぎ

たけのこ

◆ 山菜さんさいや、野原で見かける草などにも、春らしい食べ物として知られているものがあります。

漢字の音と訓おん くん

次の文を読んでみましょう。

今日は、朝早くおきて、
ゆつくり朝食をとった。



漢字の読み方には、「音」と「訓」があります。「朝」をれいに見てみましょう。

朝

(音) チョウ 朝食 早朝
(訓) あさ 朝 朝顔

「チョウ」のような「音」は、聞いただけでは意味の分かりにくいものが多い。「あさ」のような「訓」には、聞いてすぐに意味の分かるものがたくさんあります。どうして、漢字には、「音」と「訓」

の二とおりの読み方があるのでしょうか。

漢字は、はるか昔に中国ちゆうごくで生まれま

した。いっぽう、日本には、もともと文字がありませんでした。そこで、昔の日

本人は、中国の漢字を使って、日本語を

○昔むかし ●早朝ソウチャウ

○次つぎ ●朝チヨウ ●食シヨク

書き表せるようにしました。

たとえば、中国では、「山」という漢字を「サン」というような発音で読んでいました。そこで、日本でもこの漢字を「サン」と読みました。これが、「音」です。いっぽう、日本では、「まわりの土地より高くなっている所」のことを、「やま」といっていました。そこで、この漢字を「やま」とも読むことにしました。これが、「訓」です。それで、「音」と「訓」の読み方があるのです。



10

5

1 線の言葉では、音と訓のどちらが使われているでしょうか。

「これまでに習った漢字」
148ページ

- 県道ぞいに、有名な公園がある。
 - 氷がとけて水になる。
 - 一分は六十秒だ。
 - 農家のおじさんに話をきく。
 - 毎日、野球のれんしゅうをする。
 - ゆうびん局までの近道を教える。
- 2 次の漢字の音と訓をどちらも使って、文を作りましょう。
- 〈れい〉小学校で、小さなねこを見た。
- 下
 - 回
 - 切
 - 楽

10

5

書き表す

発音

県道

有名

氷

一分

六十秒

農家

野球

ゆうびん局

小学校

153ページ

球
たま

局
キョク

次
ツギ

昔
むかし

表
ヒョウ

発
ハツ

県
ケン

有
ユウ

氷
ヒョウ

秒
ビョウ

農
ノウ



ききたいことを考えて、しつもんしよう

もっと知りたい、友だちのこと

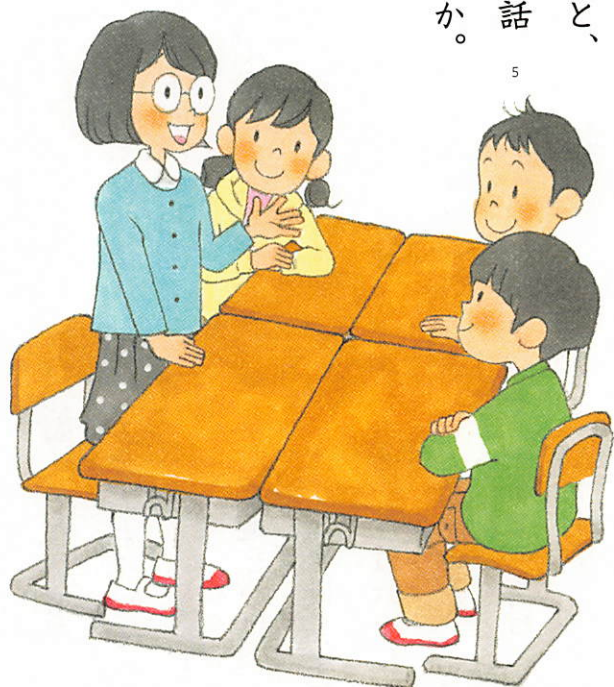
友だちの話を聞くと、もっとくわしく知りたくなるときがありますか。ここでは、友だちの話を聞きながら、もっと知りたいことを考えて、しつもんしましょう。

どんなしつもんをすると、

友だちからたくさん話が

が引き出せるでしょうか。

5



● たしかめよう

「二年生の学びをたしかめよう」

● 学習のすすめ方

5ページ

決めよう
あつめよう

1 友だちに知らせたいことを決める。

じゅんびしよう

2 しつもんや、話の聞き方について整理する。

話そう
聞こう

3 話を聞いて、しつもんする。

つなげよう

4 友だちの話で心にのこったことを、つたえ合う。

● ふりかえろう

1 友だちに知らせたいことを決めよう。

友だちと話を聞き合うために、まず、話し手として、あなたがみんなに知らせたいことを決めましょう。学校や家での出来事、好きなことやもの、今ががんばっていることなどからえらび、かんたんなメモを書いておきましょう。

2 しつもんや、話の聞き方について整理しよう。

しつもんには、次のようなものがあります。

- 「いつ・どこで・だれが・何を」をたずねるしつもん
- 「どのように」をたずねるしつもん
- 「なぜ（どうして）」をたずねるしつもん

どんなときに使うのかを、下の表でたしかめましょう。また、話を聞くときは、話の中心（いちばん話したいこと）に気をつけて聞き、話す人の方を見るようにしましょう。

15

10

5

しつ蒙んのしゆるい	「いつ・どこで・だれが・何を」をたずねるしつもん	どんなときに使うか	知らないことや、分からないことをたずねるとき。
「どのように」をたずねるしつもん	「なぜ（どうして）」をたずねるしつもん	どんなときに使うか	物事 <small>ものごと</small> のようすや、方法 <small>ほうほう</small> をくわしくたずねるとき。
しつ蒙んのしゆるい	「なぜ（どうして）」をたずねるしつもん	どんなときに使うか	したことや考えたことなどの理由をたずねるとき。

知らせたいこと

- 家でかっている魚（クマノミ）

ようす

- オレンジ色に白いおび。
- きれい。
- 小さい。
- えさを食べているところがかわいい。

5

何を話そうかな。



中シ
• 心

○ 整 理 セイ
○ 決 定 する

3 話を聞いて、しつもんしよう。



三、四人のグループになり、一人ずつ話しましょう。聞く人は、次のようにしてしつもんします。

- ① もっと知りたいことを考えながら聞く。
- ② 話を聞きおわったら、しつもんしたいことをカードに書く。
- ③ とくにしつもんしたいことをえらんでたずねる。

わたしが大切にして
いるのは、家でかつて
いるクマノミです。
クマノミは、オレン¹⁰
ジ色に、白いおびのようなもよ
うがある、きれいな魚です。見
ていると、いつも明るい気もち
になります。とくに、えさを食
べているところがかわいくて、
大すきです。
これからも大切にしたいです。



15

■しつもんカードのれい

- いつからかっているのか。
- なぜ、かいはじめたのか。
- どのようにえさを食べるのか。

- 名前
- 何びきかっているのか。
- どのぐらいの大きさなのか。



わたしがえさをやると、
水面に上がってきて、ぱく
ぱくと食べます。

どんなふうにあさを
食べるのですか。



はい。プクン
という名前です。
わたしがつけました。



クマノミには、名
前をつけていますか。

◆ひとり

▼しつもんするときや、それに答えるときなど、相手に何かをつたえるときには、大事なことを落とさずに言うようにしましょう。

「きちんとつたえるために」
44ページ

4 友だちの話で心にのこったことを、つたえ合おう。

友だちの話や、しつもんとその答えを聞いて、どんなことが心にのこったかをつたえ合ひましょう。

高山さんが、クマノミのことをとてもしつもんということが、よく分かりました。自分で名前をつけたことも、大すきな理由の一つなのかなと思いました。



ふりかえろう

- 知る しつもんするとき、どんな言葉を使いましたか。
- 話す・聞く どんなことに気をつけて、しつもんをしましたか。
- つなぐ しつもんをすると、どんないいことがありますか。



たいせつ

話を聞いて、しつもんする

- 話す人の方を見ながら聞く。
- 話のないようや、自分が知りたいことをはっきりさせる。
- 知りたいことについて、どのようにしつもんするとよいかを考える。



いいかそ

何かを調べるために、人に話を聞くとときには、しつもんしたいことをはっきりさせましょう。

○ 相手 あい
○ 落とす お

きちんとつたえるために

これまでに、言いたいことがうまくつたわらなかったことはありませんか。
相手にきちんとつたえるために、落としてはいけないことは何かを考えましょう。

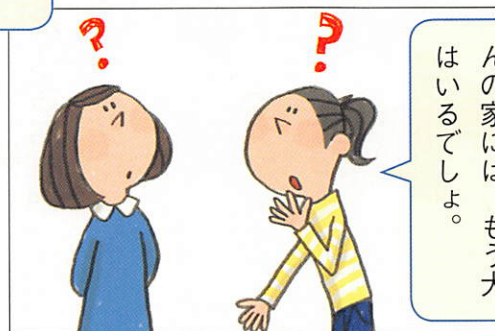


あつ、かわいい。



うん。わたしもほしくなっちゃった。

かわいかったね。



でも、かおりちゃんの家には、もう犬はいるでしょ。



わたしは、女の子が着ていた洋服のことを言ってたんだよ。

さっきの犬のことじゃないの。

▼ どうして、話が食いちがってしまったのでしょうか。
▼ 二人は、それぞれのように言えばよかったのでしょうか。

○ 着る
○ ヨウフク
○ 洋服

決

ケツ
きめる
きまる

整

セイ
ととのえる
ととのう

相

ソウ
あい

落

ラク
おちる
おとす

着

チャク
きる
つける

洋

ヨウ

服

フク

▼ひろしさんとお母さんは、それぞれどのように言えばよかったのでしょうか。

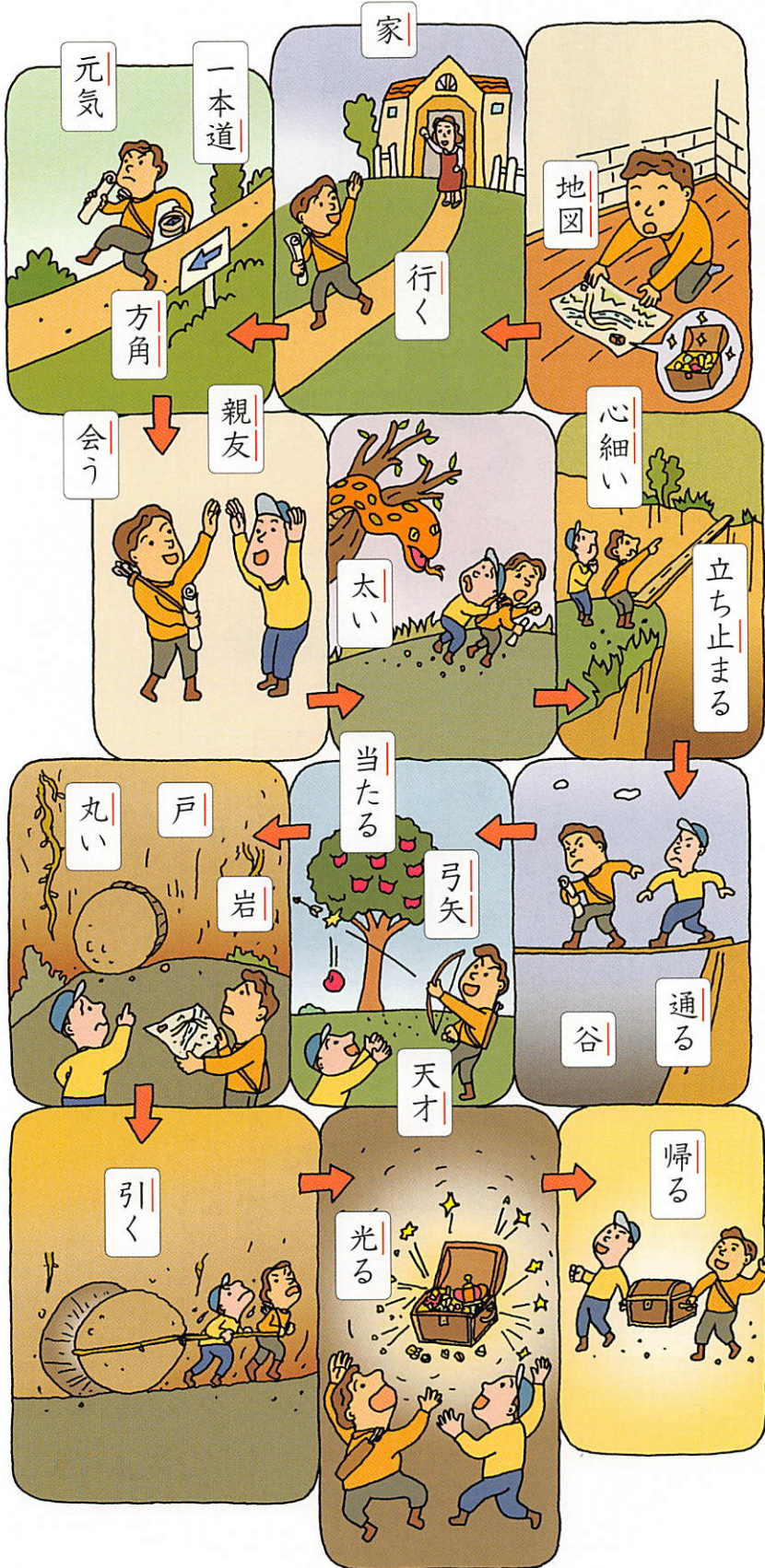




漢字の広場

2年生で
習った漢字

2



たから物をさがしに出かけた、男の子のお話を書きましょう。
「そこで」「けれども」などを使ってみましょう。
「それで、ぼうけんに行くことにしました。」



読む

段落とその中心をとらえて読み、
かんそうをつたえ合おう

〈れんしゅう〉言葉で遊ぼう

こまを楽しむ



全体と中心

2

あなたは、どんな言葉遊びをしたり、どんなこまで遊んだりしたことがありますか。二つの文章には、はじめて知る言葉遊びやこまがあるでしょうか。

これまでの学習



二年生の学びをたしかめよう
(せつめいする文章) ……………

7ページ



れんしゅう 「こまを楽しむ」の学習にいかしましょう。

言葉で遊ぼう

小野の 恭靖

はじめ

① みなさんは、しりとりや早口言葉で遊んだことがありますか。これらは、古くから多くの人に親しまれている言葉遊びです。言葉遊びには、ほかにどのようなものがあるのでしょうか。また、どのような楽しさがあるのでしょうか。

② にた音おとや同じ音の言葉を使って文を作るのが、しゃれです。たとえば、「ふとんがふつとんだ」「イクラはいくらだ」がそうです。しゃれは、「ふとん」「ふつとんだ」や、食べ物たべものの「イクラ」と数やねだんをたずねる「いくら」のように、にた音や同じ音の言葉を使って作られます。言葉には、にた音や同じ音であっても、意味がちがうものがあります。しゃれには、言葉のもつ音と意味とを組み合わせるといふ楽しさがあるのです。

③ 上から読んでも下から読んでも同じになる言葉や文が、回文です。回文には、



段落

文章を組み立てて
るまとまり。

159 ページ



問い

160 ページ

遊ぶ

全体

問い

言葉遊びの名前

言葉遊びの楽しさ

- 「問い」に書か
れていることをた
しかめましょう。
- それぞれの段落
に書かれている
ことをたしかめな
がら、音読しま
しょう。

「きつつき」や「しんぶんし」のような短い言葉もあれば、「わたしたわしわたしたわ」のように長い文のものもあります。回文になっている言葉や文を見つけたら、自分で作ったりする楽しさがあります。回文は、長くなればなるほど、作るのがむずかしくなりますが、できたときのうれしさも大きくなります。

- ④ 言葉を作っている文字の順番じゆんをならべかえて、べつの言葉を作るのが、アナグラムです。たとえば、「とけい」をならべかえると、「けいと」という言葉ができますし、「くつみがき」をならべかえると、「実がつく木」というひとまとまりの言葉ができます。アナグラムには、元の言葉とは全くちがう意味の言葉を作る楽しさがあるのです。

- ⑤ このように、言葉遊びにはいろいろあり、それぞれに楽しさがあります。言葉遊びをするのには、とくべつなどうぐや、広い場所はいりません。ふだん使っている言葉だけで、楽しい時間をすごすことができますのです。人々は、昔から言葉遊びを通して、言葉のおもしろさにふれてきました。あなたも、言葉遊びを楽しんでみましょう。

10

5

●③④の段落にも、「問い」の「答え」に当たるぶぶんに線を引きましょう。

●知っている言葉遊びはありましたか。友だちと話しましょう。

●短い

●もと

●全くまった

小野 恭靖

一九五八年、静岡
県生まれ。言葉遊び
についてけんきゆう
している。

こまを楽しむ

こまを回して遊ぶことは、昔から世界中で行われてきました。長い間、広く親しまれるうちに、こまには、さまざまなくふうがつかさねられてきました。そうして、たくさんのかまが生み出されてきました。日本は、世界でいちばんこまのしゅるいが多い国だといわれています。では、どんなこまがあるのでしょう。ま

5



安藤 正樹
あんどう まさき

た、どんな楽しみ方ができるのでしよう。

色がわりごまは、回っているときの色を楽しむこまです。こまの表面には、もようがえがかれています。ひねって回すと、もように使われている色がまざり合い、元の色とちがう色にかわるのがとくちようです。同じこまでも、回すはやさによって、見える色がかわってきます。

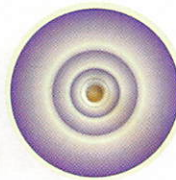
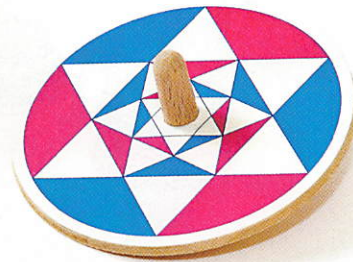
鳴りごまは、回っているときの音を楽しむこまです。こまのどうは大きく、中がくうどうになっていて、どうの横には、細長いあなが空いています。ひもを

10

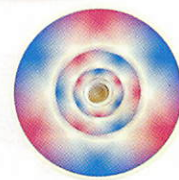
5



鳴りごま



はやく回したとき



ゆっくり回したとき

色がわりごま

○横よこ

どう

物の、まん中のぶぶん。

○行おこなう

○世セ界カイ中

引っぱって回すと、あなから風が入り
こんで、ボーッとという音が鳴ります。
その音から、うなりごまともよばれてい
ます。

さか立ちごまは、とちゅうから回り方
がかわり、その動きを楽しむごまです。

このごまは、ボールのような丸いどうを
しています。指で心ぼうをつまんで、
いきおいよく回すと、はじめはふつうに
回るのですが、回っていくうちに、だん
だんかたむいていきます。そして、さい
ごは、さかさまにおき上がって回ります。

10

5



さか立ちごま

○指^{ゆび}

心ぼう

回る物の、じくになっ
ているぼう。

たたきごまは、たたいて回しつづけることを楽しむこまです。このこまのどうは、細長い形をしています。手やひもを使って回した後、どうの下のぶぶんをおちでたたいて、かいてんをくわえます。止まらないように、上手にたたいて力をつたえることで、長く回して楽しめます。

5

曲きよくごまは、曲芸げいで使われ、おどろくような所で回して、見る人を楽しませるこまです。曲ごまは、心ぼうが鉄テツできているので、広く平らなどうをしています。ほかのこまとくらべ、安定したつくり

10



曲ごま



たたきごま

曲芸

人をおどろかせたり、よろこばせたりする、めずらしい芸。

○鉄テツ

○安定アンテイ

◆上手じょうず

なっているので、あまりゆれることがありません。台の上で手を使って回し、そこから細い糸の上や、ぼうの先のような回しにくい所へうつしかえて回しつづけます。

ずぐりは、雪の上で回して楽しむこまです。ふつうのこまは、心ぼうが細いので、雪の上で回すことはできません。

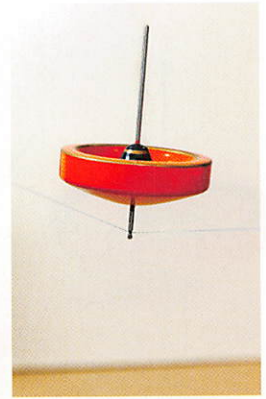
いっぽう、ずぐりは、雪の上で回して遊ぶことができるように、心ぼうの先が太く、丸く作られています。まず、雪に小さなくぼみを作り、わらでできたなわを

10

5



ずぐり



細い糸の上や、ぼうの先で回る曲ごま

使って、その中になげ入れて回します。
雪がふってもこまを回したいという人々の
思いから、ずぐりは長く親しまれてき
ました。

このように、日本には、さまざまなし
ゆるいのこまがあります。それぞれ
色も形もちがいますが、じくを中心に
バランスをとりながら回るといっつくり
は同じです。人々は、このつくりにくふ
うをくわえ、回る様子や回し方でさま
ざまな楽しみ方のできるこまをたくさん
生み出してきたのです。

10

5



雪の上で回るずぐり

ヨリス
様子

安藤 正樹

一九五八年、鳥取

県生まれ。こま回し
などの、日本の昔遊
びのけんきゆうをし
ている。



見通しをもとう

段落とその中心をとらえて読み、かんそうをつたえ合おう

- 段落や、「はじめ」「中」「おわり」のまとまりに気をつけましょう。
- それぞれの段落に書かれていることを、中心となる言葉や文をたしかめながら読みましょう。

とらえよう

- 文章全体の組み立てについて考えましょう。
- この文章には、「問い」が二つ書かれています。「問い①」「問い②」に分けて、ノートに書きましょう。
- それぞれの段落を、「はじめ」「中」「おわり」のまとまりに分けるとしたら、どのようになるでしょうか。段落に番号をつけて、考えましょう。

1

5

ふかめよう

- 「中」では、「問い」にたいする「答え」として、どんなことが書かれているでしょうか。それぞれの段落を音読しながら、中心となる言葉や文をたしかめ、ノートに整理しましょう。

2

10

1 文章の組み立て

おわり	中	はじめ
全体のまとめ	「問い」にたいする「答え」	「問い」

※くうらんに、段落の番号を書きましょう。

5

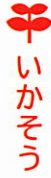
2 ノートのれい

2	段落	問い①の答え	問い②の答え
		• 色がわりごま	回っているときの色を楽しむ。



段落とその中心をとらえる

- 文章は、「はじめ」「中」「おわり」などの大きなまとまりに分けられる。大きなまとまりは、一つ、またはいくつかの段落でできている。
- 一つの段落には、それぞれ、ひとまとまりのないようが書かれている。
- 「問い」と「答え」に気をつけると、文章全体の組み立てや、段落の中心をとらえることができる。



ちしきや科学の本を読むときには、それぞれの段落の中心をたしかめながら読みましょう。

10

5

この本、読もう

昔からつたわる遊びについて書かれた本です。どんな遊びがあるのか、どんな楽しみ方があるのかに気をつけて、読んでみましょう。



すてきな日本の伝統
1巻 いろいろなあそび
手遊び、草花遊び、外遊びなど、長くつたわる遊びがたくさんあります。

10

5



ことば遊び チャレンジ20
しゃれ、回文、しりとり、なぞなぞ、当て字など、文字や言葉の楽しい遊びをしようかいています。



昔の子どものくらし事典
ゴムとびや竹馬、けん玉など、昔の子どものくらしの遊びが分かります。

15



じょうほう

かんけいをとらえよう 全体と中心

問い
では、どんなこまがあるので、
しょう。また、どんな楽しみ方
ができるのでしょうか。

答え
色がわりごまは、回っている
ときの色を楽しむこまです。



「こまを楽しむ」では、「はじめ」のぶ
ぶんに、文章に何が書かれているのかが、
「問い」のかたちでしめされています。
この「問い」にたいする「答え」が、文
章全体や段落の中心になります。

10

文章を読むときだけではなく、話した
り聞いたり書いたりするときにも、全体
にたいする中心がどこかを考えましょう。
「問い」と「答え」を見つけることは、
その手がかりになります。

5

▼次の話の中心はどこか、考えましょう。

五月になりましたが、新しい学年にはなれましたか。
ほとんど楽しい学校にしていきたいですね。それでは、
学校のみんなで楽しく生活するには、どうしたらいいのでしょうか。
遊んだり、歌を歌ったりするのもいいでしょう。でも、大切な
のは、あいさつです。あいさつは、したほうも、されたほうも気
もちよくなりますね。まずは、毎日のあいさつからはじめましょう。

10



定

テイ
ジヨウ
さだめる
さだまる

様

ヨウ
さま

遊

ユウ
あそぶ

全

ゼン
まったく
すべて

短

タン
みじかい

世

セイ
よ

界

カイ

横

オウ
よこ

指

シ
ゆび
さす

鉄

テツ

安

アン
やすい

154
ページ



大事なことを考えて、あんないの手紙を書こう

気もちをこめて「来てください」

運動会や学習発表会などのあんないの手紙を、見に来てほしい人に、書いてとどけましょう。相手に分かりやすく、ひつようなことがつたわる手紙になるように、ないようや書き方を考えましょう。



● たしかめよう

「二年生の学びをたしかめよう」

📖 6ページ

● 学習のすすめ方

決めよう
あつめよう

- 1 相手を決め、つたえることを考える。
- 2 つたえることを整理する。

組み立てよう

- 3 組み立てをたしかめる。

書こう

- 4 手紙を書いて、読み返す。かえ

つなげよう

- 5 手紙をとどける。

● ふりかえろっ

1 相手を決め、つたえることを考えよう。

だれに、何の行事をお知らせしたいですか。
相手に来てもらうためには、次のことを、
分かりやすくつたえましょう。

- いつ、どこで、何をするのか
- 行事のせつめいや、自分がすること
- ぜひ来てほしいという気持ち

2 つたえることを整理しよう。

つたえることを、メモに整理しておくど、
手紙が書きやすくなります。

メモが書けたら、友だちとこうかんして、
ないようが正しいかや、つけ足したほうがよ
いことはないかをたしかめ合ひましょう。

10

5

ほいく園の高村先生
に、運動会を見てもら
いたいな。

■ 森川さんのメモ

行事…運動会
相手…高村みちる先生

日時	五月三十日(土) 午前九時
場所	ひかり小学校運動場
自分が すること	<ul style="list-style-type: none"> • 八十メートル走 • ダンス • つな引き
気持ち	<ul style="list-style-type: none"> • がんばるから、見に来てほしい。

5

おわる時間もお知らせして
おくと、先生が予定を立てや
すいんじゃないかな。



○運動会

○予定
八十メートル走

3 組み立てをたしかめよう。

森川さんの手紙を読んで、組み立てをたしかめましょう。

4 手紙を書いて、読み返そう。

相手が気もちよく読めるように、次のことに気をつけて、手紙を書きましょう。

- ていねいな言葉を使う。(文のおわりを「です」「ます」でそろえる。)
- 正しく、読みやすい字で書く。

書きおわったら、声に出して読み返しましょう。読みづらいところはありますか。ないようや字にまちがいはないかや、ていねいな言葉づかいになっているかをたしかめましょう。

10

5

■森川さんの手紙

緑がきれいなきせつになりました。高村先生、お元氣ですか。ぼくは元氣です。こんど、ぼくが通う小学校で運動会が開かれますので、ごあんないします。

日時 五月三十日(土)

午前九時から午後三時

場所 ひかり小学校 運動場

ぼくは、八十メートル走とダンス、つな引きに出ます。毎日、れんしゅうをしています。どれも力いっぱいがんばるので、ぜひ見に来てください。

五月十二日

森川 そうた

高村みちる先生

はじめのあいさつ

つたえること

- 行事
- 日時と場所
- すること
- 気もち

書いた日

自分の名前

相手の名前

10

5

5 手紙をとどけよう。

手紙は、ふうとうに入れてわたしましょう。地図やプログラムなどを入れてもよいですね。

ゆうびんで送る場合は、住所とあて名を書きましよう。

「手紙の書き方」

↓
136ページ



ふりかえろう

- 知る
- 書く
- つなぐ

言葉の使い方や気をつけたのは、どんなことですか。
相手に来てもらうためには、どのようなことを知らせるとよいと思いましたが、今までに書いた手紙とあんないの手紙とでは、どんなちがいがありましたか。



あんないの手紙を書く

〈ないうようについで〉

- 相手て来るためにひつようなことを考える。
- 来てほしい気もちをつたえる。

〈書き方について〉

- ていねいな言葉を使い、文字を正しく書く。



あんないをするときは、相手て知りたいうをつたえるようにしましよう。

運 ウン

予 ヨ

返 ヘン

かえす
かえる

緑 リョク

みどり

送 ソウ

おく

住 ジュウ

すむ
すまう

↓
154
ページ

読 よ
み み
返 かえ
す

● 通 かよ
う

○ 送 おく
る

○ 住 ジュウ
所



漢字の広場

2年生で
習った漢字

3

時を表す言葉を使って、日曜日の出来事と、
家の人の今週の予定を書きましよう。
（れい） 日曜日の朝は、おきるのがおそくな
りました。



室内

妹

人形

朝

日曜日

顔



外

何回

午前



来る

午後

半分



夜

思い出す

日記

父

母

肉



作る

小刀

兄



毎日

今週

弟

当番



東京

行く



テレビ番組

姉

楽しみ



読む

登場人物のへんかに気をつけて
読み、感想を書こう

まいごのかぎ

3

学校からの帰り道に、「りいこ」は何かを
見つけます。それはいったい、何でしょうか。
そして、どんなことがおこるのでしょうか。



これまでの学習

場面のようすや、登場人物の気もちをそうぞうする
(きつつきの商売) 28ページ

まいごのかぎ

齊藤 倫作 さいとう りん 作

陣崎 草子 じんさき そうこ 絵

海ぞいの町に、ぱりっとしたシャツのような夏の風がふきぬけます。だけど、学校帰りの道を行くりいこは、うつむきがちなのです。

「またよけいなことをしちゃったな。」

りいこは、しょんぼりと歩きながら、つぶやきました。

三時間目の図工の時間に、みんなで学校のまわりの絵をかきました。りいこは、おとうふみたいなの

5



こうしやが、なんだかさびしかったので、その手前にかわいいうさぎをつけ足しました。そしたら、友だちが、くすくすわらったのです。

りいこは、はずかしくなって、あわてて白い絵の具をぬって、うさぎをけしました。そのとき、りいこの頭の中にたしかにいたはずのうさぎまで、どこにもいなくなった気がしたのです。うさぎに悪いことをしたなあ。思い出しているうちに、りいこは、どんどんうつむいていって、さいごは赤いランドセルだけが、歩いているように見えました。

ふと目に入ったガードレールの下のあたりに、かたむきかけた光がさしこんでいます。もじやもじやしたヤブガラシの中で、何かが、ちらっと光りました。

「何だろう。」

りいこが拾い上げると、それは、夏の日ざしをすいこんだような、

10

5

カ
ン
ソ
ウ
感
想

絵
の
具

わ
る
悪
い

ヤ
ブ
ガ
ラ
シ



ひ
ろ
拾
い
上
げ
る

こがね色のかぎでした。家のかぎよりは大きくて、手に持つほうが、しっぽみたいにくるんとまいています。

「落とし物かな。」

そう、小さく、声に出しました。すると、かぎは、りいこにまばたきするかのように光りました。

りいこは、元気を出して顔を上げました。落とした人が、きっとこまっているにちがいない。帰り道の方角とはべつの、海べにある交番に向かって、ゆるい坂を下りはじめました。

坂道にならんだいくつもの家をながめながら、このかぎは、どんな人が落としたのかなあと、りいこは、あれこれと思いうかべました。通りぞいにある、大きなさくらの木は、青々とした葉ざくらになっていました。その木のねもとを見て、りいこは、びっくりしました。



○持もつ

○向むかう

○坂さか



「あれは、何だろう。なんだかかぎあなみたい。」

木のふしあなではないのです。ドアのかぎのように四角い金具が、みきについていて、そのまん中に円いあながありました。

「もしかして、さくらの木の落としたかぎだったりして。」

まさか、ね、と思いながら、持っていたかぎをさしこんでみます。すると、すいこまれるように入っていく、回すと、ガチャンと、音がしました。

「あっ。」

思わず、さげびました。木が、ぶるつとふるえたのです。そうして、えだの先に、みるみるたくさんをつぼみがついて、ふくらんでいったかと思うと、ばらばらと何かがふってきました。

「どんぐりだ。」

りいこは、悲鳴をあげます。さくらの木に、どんぐりの実がつくなんて。おさげの頭にコンコン当たるどんぐりを、ランドセルでふせぎながら、あわててかぎをぬきました。どんぐりの雨は、

10

5



びたりとやみ、さくらの木は、はじめの葉ざくらにもどっていました。

「びっくりした。」

りいこは、道の方に後ずさりしながら、

言いました。

5

「こんなことになるなんて。さくらの木のかぎじゃなかったんだ。」

さらに下っていくと、公園があります。よく遊んでいる場所ですが、今日は、通りぬけるだけ。そのほうが、海べへの近道なのです。ところが、緑色のベンチの手すりに、小さなあなが空いているのです。

「なんだか、あれもかぎあなに見えるんだけど、そんなはずないよね。」
りいこは、だれにともなくつぶやいて、通りすぎようとしています。けれど、ふと立ち止まってしまいました。

10



○悲ヒ鳴メイ



「でも、もしかして——」。

カチンとかぎを回す音が、あたりにひびきました。ベンチは、四本のあしをぐいとのはし、大きな犬のように、せなかをそらしました。

「わあ。」

りいこは、ひっくり返りそうになりました。日かげにいたベンチは、のそのそと歩きだすと、公園のまん中の日だまりにねそべり、そのままねいきを立てはじめました。りいこは、びっくりして見ていましたが、しのびよると、

かぎをぬきとりました。ベンチは体をふるわせ、りいこの方を、なんだかうらめしそうにふり返ってから、元いた所に帰っていきました。

「ベンチのかぎでもないよね。歩くなんて、おかしいもの。」

りいこは、ためいきを一つついて公園を後にしました。坂を下ると、大きな国道にぶつかります。その向こうには、海がきらきらと光っています。

交番までは、もう少し。おうだん歩道をわたるとしおのかおりがしてきます。道のわき

10

5





にいたが立ててあり、魚の開きが一
面にならべてありました。りようし
さんがあじのひものを作っているの
です。そばを通るとき、中の一ぴき
に、円いあなが空いているのに気が
つきました。

「お魚に、かぎあななんて。」

へんだと思いつながら、見れば見る
ほど、やはり、ただのあなではなさ
そうです。いつしかすいこまれるよ
うに、かぎをさしこんでいました。

カチャツ。たちまち、あじの開き

は、小さなかもめみたいに、はばたきはじめます。あっけにとられているうちに、あじは、目の前でふわふわとうかび上がりました。

りいこは、あわててとびつき、かぎを引きぬきました。開きは、元のいたの上に、ぼとりと落ちました。

「あぶない。海に帰っちゃうところだった。」
わたし、やっぱりよけいなことばかりしてしまう。りいこは、悲しくなりました。早く交番にとどけよう。

海岸通りをいそぎはじめたとき、ふとバス
ていのかんばんが目に入りました。「バス」

10

5



という字の「バ」の点が、なぜか三つあるのです。その一つが、かぎあなに
見えました。

「どうしよう。」

りいこはまよいました。よけいなこと
はやめよう。そう思ったばかりです。

そのとき、点の一つが、ぱちっとまた
たきました。

「これで、さいごだからね。」

いっしかりいこは、かんばんの前で
せのびをしていました。カチンと音が
して、かぎが回りました。ところが、

10

5





何もおこりません。

ほっとしたような、がっかりしたよ
うな気持ちで、バスの時こく表を見て、
りいこは「あっ。」と言いました。数字
が、ありのように、そろそろ動いてい
るのです。五時九十二分とか、四十六
時八百七分とか、とんでもないとい
ちやく時間になっています。

「すごい。」

りいこは、目をかがやかせました。で
も、すぐに、わくわくした自分がいや
になりました。りいこは、かぎをぬき

とりました。

「あれ。どうして。」

時こく表の数字は、元には、もどりませんでした。

りいこはこわくなって、にげるようにはけだしました。交番のある方へすなはまを横切ろうと、石だんを下りかけると、国道のずっと向こうから、車の音が聞こえてきます。ふり向くと、バスが十何台も、おだんごみたいにぎゅうぎゅうになって、やって来るのです。

「わたしが、時こく表をめちやくちやにしたせいだ。」

どうしよう。もう、交番にも行けない。

おまわりさんにしかられる。りいこは、かぎをぎゅつとにぎりしめて、立ちすくんでしまいました。

10



5

きみようなことは、さらにおこりました。つながってきたバスが、りいこの前で止まり、クラクションを、ファ、ファ、ファーン、と、がっそうするように鳴らしたのです。そして、リズムに合わせて、くるくると、向きや順番じゆんをかえはじめました。りいこは、目をぱちぱちしながら、そのダンスに見とれていました。

「なんだか、とても楽しそう。」

そして、はっと気づいたので。もしかしたら、あのさくらの木も、楽しかったのかもしれない。どんぐりの実をつけ

10

5



たのは、きっと春がすぎても、みんなと遊びたかったからなんだ。ベ
ンチも、たまには公園でねころびたいだろうし、あじだって、いちどは
青い空をとびたかったんだ。

「みんなも、すきに走ってみたかったんだね。」

しばらくして、バスはまんぞくしたかのようになり、一台一台いつも
の路線に帰っていきました。そのとき、一つのまどの中に、りいこは
たしかに見たのです。図工の時間にけしてしまった、あのうさぎが、
うれしそうにこちらに手をふっているのを。

りいこもうれしくなって、大きく手をふり返しました。にぎって
いたはずのかぎは、いつのまにか、かげも形もなくなっていました。
りいこは、夕日にそまりだした空の中で、いつまでも、その手をふり
つづけていました。

○路線

齊藤 倫

一九六九年、秋田
県生まれ。詩人、作
家。「せなか町から
ずっと」「どうだい」
などの作品がある。





見通しをもとう

登場人物のへんかに気をつけて読み、感想を書こう

- 様子や気持ちを表す言葉に気をつけましょう。
- ふしぎな出来事によって、登場人物にどのようなへんかがあったかを考えましょう。

とらえよう

- この物語は、いくつかの場面に分けられます。
- 様子を表す言葉に気をつけて、ふしぎな出来事をそうぞうしながら読みましょう。
- 場所と出来事に気をつけて、場面に分けましょう。
- そして、それぞれの場面でおこったことと、そのときの「りいこ」の様子や気持ちをたしかめましょう。

1

ふかめよう

● 物語のさいしょとさいごでは、「りいこ」にどのようなへんかがありましたか。次のことについて、使われている言葉に気をつけて考えましょう。

10

5

1 ノートのれい

場面	「りいこ」の行動 や、おこったこと	「りいこ」の 様子や気持ち
学校の帰り道 かぎを拾う 「りいこ」	<ul style="list-style-type: none"> • 図工の時間を思い出す 	<ul style="list-style-type: none"> • うつぶしがちなことをしちやっとな。
交番に向かう 坂道 さくらの木にかぎをさしこむ 「りいこ」	<ul style="list-style-type: none"> • さくらの木のねもとにかぎあなを見つける 	<ul style="list-style-type: none"> • びっくり

5



ふりかえろう

- 知る どのような言葉に気をつけて、様子や気持ちをそうぞうしましたか。
- 読む 登場人物のへんかに、それぞれの出来事はどのようにかかわっていましたか。
- つなぐ 友だちの感想を読んで、感じ方がかわったり、新しく発見したりしたことは何ですか。

● 行動
● 発見

ひろげよう

● 書いたものを友だちと読み合い、自分の考えと同じところやちがうところについて、つたえ合いました。

10

まとめよう

- 「おもしろいな」「すきだな」と思ったところを中心に、次のようなじゆんじよで感想を書きましょう。
- ① 出来事や、「いいこ」という人物について、おもしろかったところやすきなところをえらぶ。
- ② そう思った理由や、考えたことなどをまとめる。
- ③ 書きだしとむすびをくふうして、感想を書く。

2

5

2 感想のれい

この物語を読んで、いいことわたしは、なんだかいている気がしました。

わたしは、いいこがまよいながらも、なんどもかきをさしてしまふところがすきです。なぜかという、わたしも――。

いいことは、きつとなかよしの友だちになれる気がします。

10

むすび

5

おもしろかったところやすきなところとその理由

書きだし



声に出して楽しもう

俳句を楽しもう

声に出して読み、言葉の調子やひびきを楽しみましょう。
どこで区切って読むと、調子よく読めるか考えてみましょう。

俳句は、五・七・五の十七音おんで作られた短い詩です。ふつうは、「季語」という、きせつを表す言葉が入っています。俳句の十七音の中には、しぜんの様子や、そこから感じられることが表されています。

古池や蛙飛びこむ水の音

松尾芭蕉

ひっそりとしずかな古池に、かえるが飛びこむ水の音が聞こえた。

閑かさや岩にしみ入る蟬の声

松尾芭蕉

なんてしずかなだろう。その中で、せみの声だけが、まるで岩の中にしみていくように聞こえている。

俳句は、一句、二句というように、「句」を使って数える。

調子

区切る

春の海終日ひねもすのたりのたりかな

与謝蕪村よさきぶそん

あたたかな春の日の海は、一日中、のたりのたりとうねっているよ。

菜なの花や月は東に日は西に

与謝蕪村

見わたすかぎりの菜の花ばたけ。月は東の空からのぼりはじめ、太陽は西にしずんでいく。

雪とけて村いっばいいつぱいの子どもかな

小林一茶こばやし いっさ

雪がとけて、子どもたちがいっせいに外に出てきて、村中にあふれかえっているよ。

夏山や一足ずつつに海見ゆる

小林一茶

山を登り、ちようじようが近づいてきた。一步すすむごとに、明るい夏の海が見えてくる。



詩や歌の音の数

昔の詩や歌には、五音と七音を
組み合わせ、調子を整えている
ものがたくさんあります。たとえ
ば、「いろは歌」は、七音・五音
のくり返して作られています。
声に出して読み、調子のよさを
感じてみましょう。

5

いろは歌

いろはにほへと
ちりぬるを
わかよたれそ
つねならむ
うゑのおくやま
けふこえて
あさきゆめみし
ゑひもせす

5

「つねならむ」「あ
さき」「ゆめみし」な
ど、昔の言葉の形が
のこっているものを
文語という。また、
昔の文章には、「け
ふ」と書いて「きよ
う」と読むなど、今
とは文字の読み方が
ちがうものがある。

言葉

こそあど言葉を使いこなそう

あのボールで遊ぼうよ。



このボールはよくはずむよ。



どれのことを言っているの。



それをとって。



「この・その・あの」や「これ・それ・あれ」などは、何かを指ししめす言葉です。たずねるときには、「どの」や「どれ」などを使います。このような言葉をまとめて、こそあど言葉といえます。

こそあど言葉は、次のように使い分けられます。

様子	方向	場所	物事	話し手に近い場合	相手に近い場合	どちらからも遠い場合	はっきりしない場合
こう	こちら	ここ	この	こ	そ	あ	ど
こんな	こっち		これ				
そう	そちら	そこ	その				
そんな	そっち		それ				
ああ	あちら	あそこ	あの				
あんな	あっち		あれ				
どう	どちら	どこ	どの				
どんな	どっち		どれ				

こそあど言葉を使って話すときは、相手と自分が同じものを指しているかに、気をつけましょう。

こそあど言葉は、文章中の言葉を指ししめすこともできます。

わたしは、おばあさんから赤いぼうしをもらった。次の日、わたしはおばあさんからもらった赤いぼうしをかぶって、出かけた。



わたしは、おばあさんから赤いぼうしをもらった。次の日、わたしはそれをかぶって、出かけた。

このように、こそあど言葉を使うことで、文章を短くすることができます。

10

5

1 次の文章のこそあど言葉に線を引き、それが何を指しているのかを考えましょう。

- 近所に新しいプールができました。
- 次の土曜日には、そこで泳ぐ予定です。
- しゃいのつもりで練習するとよい。
- これが、コーチからの助言です。
- 童話の読み聞かせの会に申しこみました。あれは、三日前のことです。



文章を読むときは、こそあど言葉が何を指しているかに、気をつけましょう。

10

5

- 近所
- 泳ぐ
- 練習
- 助言
- 童話
- 申しこむ

泳 エイ およぐ

練 レン ねる

助 ジョ たすける たすかる

童 ドウ ドウ

申 モウ 申す

あつめるときに使おう 引用するとき



- 調べたことをほうこくするときには、本などに書いてある言葉と自分の言葉とを、くべつしなければいけません。
- ほかの人の言葉を、自分の文章や話の中で使うことを、引用といいます。
- 文章の引用には、決まりがあります。
- 1 かぎ(「」)をつけたり、本文よりも少し下げたりして、分かるようにする。
 - 2 元の文章を、そのままぬき出す。
 - 3 何から引用したのかをしめす。

言葉遊びには、いろいろなしゅるいがあります。

「言葉で遊ぼう」によると、しゃれは、「にた音や同じ音の言葉を使って文を作る」言葉遊びです。

〈使った本〉
小野恭靖「言葉で遊ぼう」
〇〇図書、二〇二〇年

正しく引用するために、次のことに気をつけて、調べたことを書きとめましょう。

「にた音や同じ音の言葉を使って文を作るのが、しゃれです。」

小野恭靖「言葉で遊ぼう」
48ページ
〇〇図書，2020年

ひらがな、かたかな、漢字も同じように書きうつす。

そのまま書きうつしたことが、後で分かるようにしておく。(書きうつしたぶんにかぎをつけるなどしてもよい。)

書いた人、本の題名、何ページなのかを書く。出版社と発行年もたしかめる。

書きとめるときに、まちがえないように、気をつけよう。



10

5

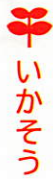
人から聞いたことを書くときも、かぎをつけて、だれの言葉なのか分かるようにしましょう。行をかえずに、つづけて書きます。

言葉遊びを楽しむイベントを毎月行っている、児童館の下山さんは、「何もなくても、大人も子どもも楽しめるのが、しゃれのいいところですよ。」と言っていました。

5

▼「こまを楽しむ」(50ページ)
から引用して、あなたがきょうみをもったこまとその遊び方を、一つしよいかいしましょう。

10



いかそう

調べたことを書きとめるときには、ないようとともに、何から調べたのかを書きましょう。

15

引用



引用

160ページ

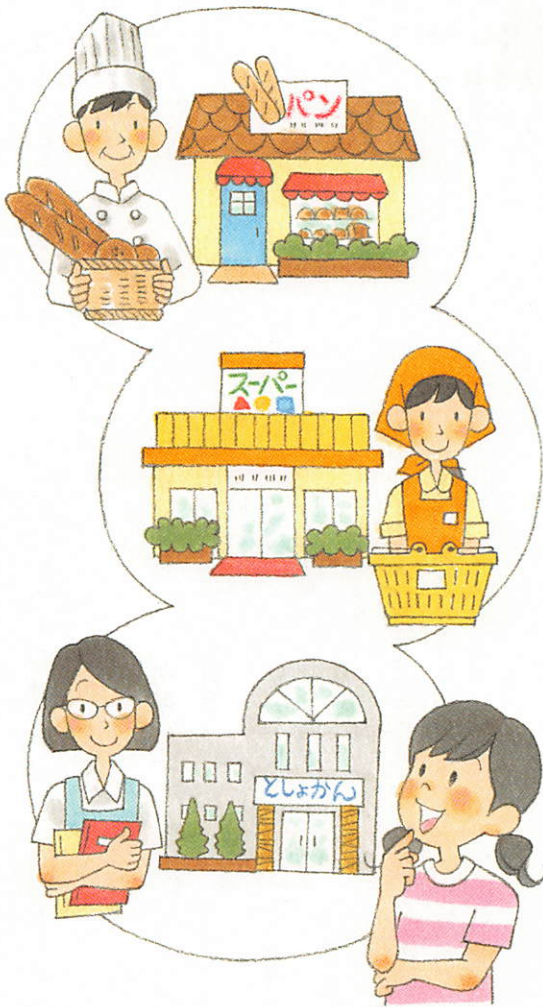
おとな
大人



組み立てを考えて、ほうこくする文章を書こう

仕事のくふう、見つけたよ

みなさんの身の回りでは、いろいろな人が、いろいろなくふうをしながら、仕事をしています。仕事のくふうを見つけて、友だちにほうこくする文章を書きましょう。組み立てを考えて、分かりやすくつたえましょう。



● たしかめよう

「二年生の学びをたしかめよう」

「引用するとき」

● 学習のすすめ方

6ページ
90ページ

決めよう
あつめよう

- 1 調べたい仕事を決める。
- 2 くわしく調べる。

組み立てよう

- 3 ほうこくする文章の組み立てをたしかめる。

書こう

- 4 ほうこくする文章を書く。

つなげよう

- 5 読み合って、感想をつたえる。

● ふりかえろう

1 調べたい仕事を決めよう。

身の回りにある仕事を、たくさんあげましょう。その中から、自分が調べたい仕事をえらびましょう。

同じ仕事を調べる人で、グループを作ってもいいね。

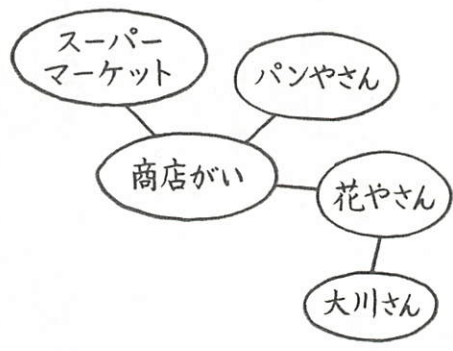


2 くわしく調べよう。

次のようにして調べましょう。

- 自分が調べたい仕事について、本などでたしかめ、知りたいことをはつきりさせる。
- どんなくふうをしているのか、見たりきいたりして調べる。
- 見たことやきいたことは、短くまとめてメモする。
- 見つけたくふうの中から、友だちが知っていることと、知らないことを予想し、つたえたいことをえらぶ。

■ 図にして思い出す



■ 話を聞いたときのメモ

ひかりスーパー店長の木村さん

しつもん

商品のならべ方でくふうしていることは何か。

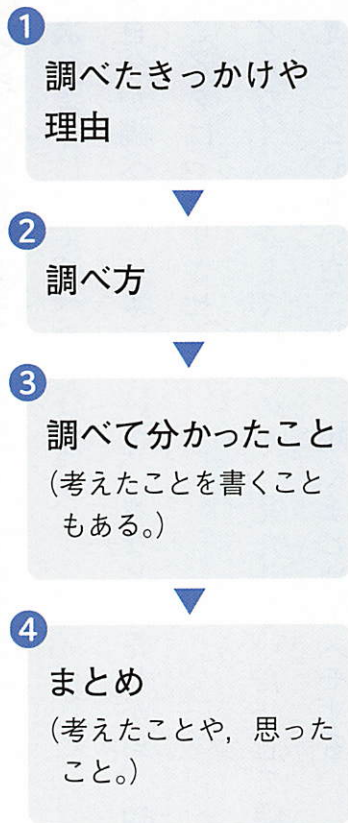
答え

- おすすめ品
ちらしでせんてん
- 木村さんのお話
→お客様がよく通る場所に、

○身_ミの回_ワり
○仕_シ事_ジ
○商_{シヤ}品_{ヒン}
○客_{キヤク}様_{ヤウ}

3 ほつこくする文章の組み立てをたしかめよう。

つたえたいことは、ないようのまとまりに分けましょう。



4 ほつこくする文章を書こう。

次のことに気をつけて書きましよう。

- 仕事のことをよく知らない人にも分かるように、れいをあげて書く。
- 見たりきいたりして分かったことと、考えたこととのちがいがくべつでできるように、**段落**を分ける。
- 絵やしやしんをのせるときは、見せたいものがはっきり分かるものにする。

■組み立てのメモ

題名
スーパーマーケットの
商品のならべ方のくふう

1. 調べた理由
2. 調べ方
3. 調べて分かったこと
 - (1)おすすめ品のおき方
 - (2)レジのそばの商品の
ならべ方
 - (3)長いたなの商品の
ならべ方
4. まとめ

分かったこと	考えたこと
<ul style="list-style-type: none"> ●お客さんがよく通るところに、おすすめの商品がおいてある。 ●レジのそばには、アメやガムなどがおいてある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●目につく場所にあると、つい手にとりたくなる。 ●ならんでいるときに、買いわすれた人が買いやすいようにしているのだろうか。

スーパーマーケットの商品のならべ方のくふう

谷口 あかり

1. 調べた理由

1

わたしは、買い物をたのまれて、よくスーパーマーケットに行きます。いつも、どのように商品をならべるのかが気になっていました。そこで、商品のならべ方のくふうについて、調べることにしました。

2. 調べ方

2

ひかりスーパーに行き、見学をしました。また、店長の木村さんに話をうかがいました。本も合わせて読みました。

3. 調べて分かったこと

(1) おすすめ品のおき方

3



ひかりスーパーでは、ちらしてせんでんした商品を、「おすすめ品」として売っています。おすすめ品には、そのきせつがいちばんおいしいやさいや、行事に合った食べ物などがあります。

おすすめ品は、お店のもっとも売りたい商品なので、くふうしておくそうです。店長さんは、「お客様がよく通る場所に、できるだけ広くおくようにして目立たせます。」とおっしゃっていました。

たしかに、お店を歩いているときに、きせつや行事に合った商品が目に入ると、わたしもつい手にとりたくなります。

(2) レジのそばの商品のならべ方

4. まとめ

4

スーパーで何気なく見ていたたなにも、一つ一つくふうがあることを知りました。とくに、おすすめ品を目立たせるために商品をおく場所や広さを考えていることに、おどろきました。こんど、スーパーに行くときは、お店の人のくふうをさがしながら買い物をしたいと思います。

5 読み合って、感想をつたえよう。

書いた文章を読み合い、感想をつたえましょう。

■せつめいのしかたについて



おすすめ品を、どこに、
どうおいているのが、
しゃんがあつて分かり
やすかったよ。

■調べたことについて



商品をおく場所って、こ
んなふうと考えられている
んだね。知らなかった。



たいせつ

組み立てを考えて、
ほうこくする文章を書く

- つたえたいことを、ないようのま
まりに分ける。
- 分かったことと考えたことをくべ
つて書く。
- 分かりやすい絵やしんを使う。



いかそう

社会や総合的な学習そごうてがくの時間などで、調
べたことをほうこくするときには、組み
立てを考えて、分かりやすくつたえま
しょう。



ふりかえろう

- 知る 分かったことと考えたことをくべつするため、どんな書き方をしましたか。
- 書く 調べたことを、どのようなまとまりに分けて書きましたか。
- つなぐ 友だちの文章を読んで、まねしてみたいと思った書き方はどこですか。

符号など

●句読点 丸(。)(、)を句点、点(・)を

読点、合わせて句読点といっています。句点は文の終わりに、読点は、文の中の意味の切れ目にうって、文を読みやすくします。

●父は、銀行に行きました。

●おや、去年よりねだんが高くなりましたね。

●毛筆で書くと、気持ちが引きしまる。

●入学式の日も、遠足の日も、晴天だった。

●中点(・) 言葉をならべる場合に使います。

●タンポポ・オオバコ・シロツメクサなど。

10

5

●ダツシュ(——) ①せつめいをおぎ

なう場合、②言い切りにせず、とちゅうで止める場合に使います。

①辺(へん)——図形を作る直線。

②「まあ、なんてきれいな——」。

●かぎ(「」) ①会話、②書名・題名、

③思ったこと、④とくにほかの文と分けた言葉や文をしめす場合に使います。

●横書き 左から右に書きます。

●読点として、多くの場合、コンマ(、)を使います。

●算用数字を使います。ただし、「一つ」「二日目」などは、漢数字を使います。

10

5

句読点

●句読点

●終わり

●銀行

●去年

●毛筆

●入学式

●晴天

●直線

●二日

160ページ

仕シツカ

身シ

品シ

客シヤク

終シユウ

銀ギン

去キョ

筆ヒツ

式シキ

155ページ

夏のくらし

はなび

つるみ
鶴見 正夫

ひの はな

さけ さけ

なつの よるの にわに

さいて ちって

ちって きえて

きえても まだ のこる

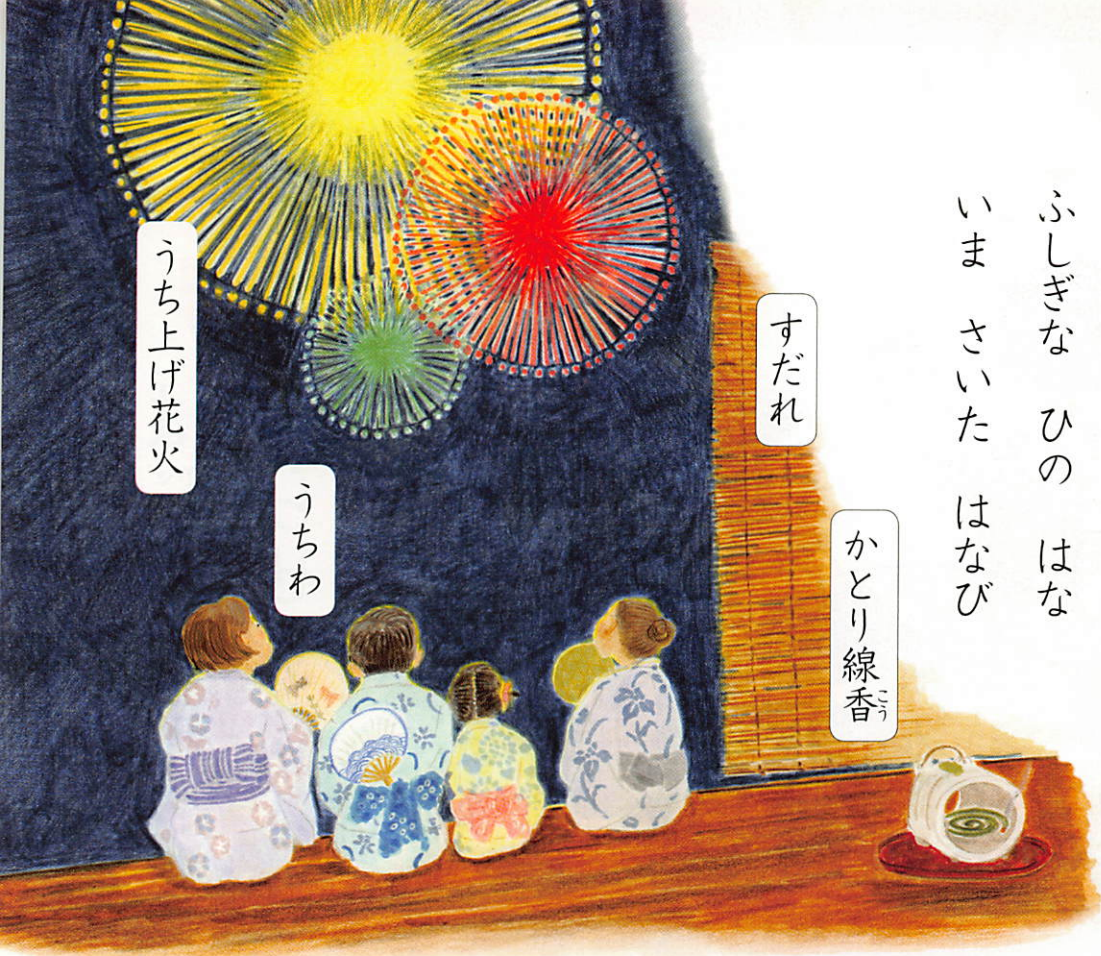
5

生活の中で、夏らしさを感じることはありませんか。身の回りで見つけた、夏を感じたものについて書きましよう。

今日はとてもあつかったので、夕方におばあちゃんといっしょにうち水をしました。家のにわに水をまくと、すずしくなったように感じました。おばあちゃんが子どもころも、うち水をしていたそうです。

◆ あつい夏をのりきるためのくふうです。





うち上げ花火

うちわ

すだれ

かとり線香ことう

とじた めの なかに
ふしぎな ひの はな
いま さいた はなび

みつまめ



白玉



ところてん



水ようかん



しら
白玉

そうめん



◆夏には、つめたくてのどごしのよいものがよろこばれます。



せんぷうき

本
は
友
だ
ち

はじめて知ったことを 知らせよう

本を読むと、しぜんや生活、社会についての新しいちしきや、
今まで知らなかった考え方に会えます。

本を読んで、はじめて知ったことを友だちとつたえ合いま
しょう。



● 学習のすすめ方

1 本を読んで何かを知ったとき
のことを、思い出す。

2 本をえらんで読む。

「鳥になつたきょうりゅうの話」

105
ページ

3 友だちとつたえ合う。



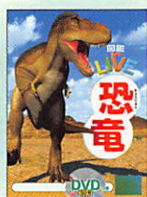
1 本を読んで何かを知ったときのことを、思い出そう。

読書きろくを見返すなどして、本から何かを知ったときのことを思い出しましょう。

ゾウがおなかの音でなかまをよんでいることを知ったときは、おどろいたなあ。



バナナは、白いすじで、実にえいようを運んでいるんだって。知ってからは、バナナを食べるときに、見るようになったよ。



きょうりゅう図鑑かんには、図がたかさんのついていたから、体の大きさなどがよく分かった。

2 本をえらんで読もう。

図鑑や科学読み物などから、おもしろそうだと思う本をえらんで読みましょう。

1 で思い出したことにかんけいのある本を、さがすのもいいですね。

図鑑

おもに、絵やしやしん、図鑑などを使って物事をせつめいした本。「植物図鑑」「動物図鑑」など、一さつに同じなままのものを数多く集めて、しようかいしている。

5

科学読み物などの本

ふつう、一つの物事についてくわしくせつめいしている。題名に、せつめいされている物事や、そのとり上げ方が表れていることが多い。

10



知りたいことがあるときは、「目次」や「さくいん」を使うと、目的のページを早く見つけることができます。

目次

本のはじめにある。書か
れている順に見出しをなら
べ、はじまりのページをし
めしている。

5

さくいん

ふつう、本の後ろの方に
ある。本の中に出てくる言
葉や物事をぬき出して五十
音順に整理し、どのページ
にあるかをしめしている。

10

さくいん	
【チ】	
チツチゼミ	73
チビクワガタ	36
チャイロスズメバチ	59
チャタテムシのなかま	113
チョウトンボ	16
チョウのなかま	22
【ツ】	
ツクツクボウシ	74

目次	
この本の使い方	4
こん虫の進化となかま分け	6
こん虫の体	10
トンボのなかま	12
チョウのなかま	22
ゴウチュウのなかま	32
ハチのなかま	54
さくいん	162

この本、読もう



助けあう生き物の話

クマノミとイソギンチャクなど、助け合ってくらしている生き物たちの様子をのぞいてみましょう。



5

ここにも、こけが…

四億二千万年くらい前に地球にあらわれた、こけのそせん。今日もどこかで、なかまをふやしています。



10

ファールブル昆虫記

ファールブルは知りたがり屋。昆虫を見つけると、かんさつしたり、じっけんしたりしてなぞをときます。



15

塩の絵本

あせは、しょっぱい味がしませんか。人は、塩がないと生きるこゝとができません。塩は、地球上のいろいろな場所にあるのです。



20

「本の世界を広げよう」

141ページ

巣づくりの名人 スズメバチ

一ぴきの女王バチが作りはじめた巣は、少しずつ大きくなりました。中では、何が行われていたのでしょうか。



5

とりになったきょうりゅうのはなし

鳥ときょうりゅうには、どのようなかんけいがあるのでしょうか。読むと、びっくりしますよ。



10

たねのはなし

花がさくまでに、十年もかかるたね。二十五キログラムものおもさになるたね。あなたは、どんなたねが気になりますか。



15

宇宙人っているの？

宇宙には、わたしたちがくらす地球にた星があるそうです。どんな生き物がいるか、そうぞうしてみましょう。



20

植物

集める

目次

さくいん

159ページ



ぼくは、「とりになったきょうりゅうのはなし」を読むことにしたよ。

この文章は、105ページから読むことができます。

3 友だちとつたえ合おう。

本で知ったことを、発表しましょう。友だちから聞いて、おどろいたり感心したりしたことはありませんか。しょうかいされた本を読んでみるのもいいですね。

○化石
カセキ

「言葉のたから箱」

157ページ

■ 発表のれい

ぼくはきょうりゅうがすきなので、「とりになつたきょうりゅうのはなし」という本を読みました。

この本には、鳥はきょうりゅうの生きのこりだと書いてありました。きょうりゅうの化石を調べてみると、鳥の体のつくりとよくにているのだそうです。ふだん何気なく見ている鳥ですが、きょうりゅうのなかまだと知って、とてもおどろきました。

どうしてきょうりゅうが鳥になったのか知りた
い人は、ぜひこの本を読んでみてください。

その本をえらんだ理由

本に書いてあったことで、

- おどろいたこと
 - 感心したこと
 - ふしぎに思ったこと
- などをしょうかいする。

本にきょうりゅうをもつて
もらうよびかけ など



図鑑や科学読み物を読む

● 図鑑や科学読み物は、とり上げる物事について、絵やしやしん、図などを使ったり、くわしくせつめいしたりして、分かりやすく書かれています。

● 図鑑や科学読み物で何かを調べるときは、目次やさくいんを使うとよい。

読んでみよう



103ページでとり上げているものです。あなたにとって、はじめて知ることはありませんか。

鳥になった

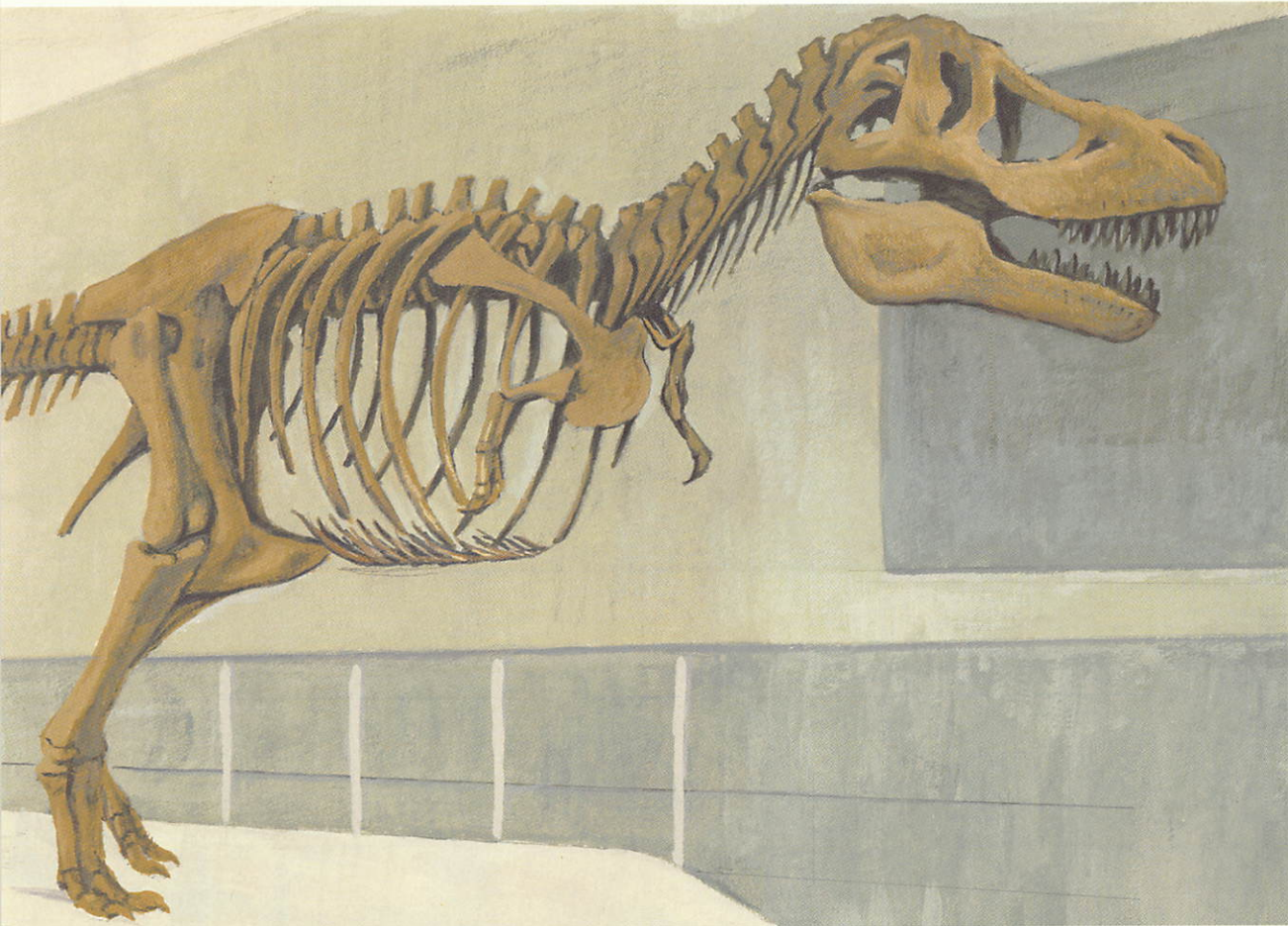
きょうりゅうの話

おおしま えいたろう
大島 英太郎 文・絵

あなたは、きょうりゅうの化石を見たことがありますか。

はくぶつ館などにあるきょうりゅうのほねの化石を見ると、わたしたちはその大きさにびっくりさせられます。こんなに大きな生き物たちが、本当にいたの

5



です。

きょうりゅうがすんでいたのは、ずっとずっと大昔のことです。そのころの地球はとてもあたたかくて、きょうりゅうたちにとってはくらしやすい所だったのです。

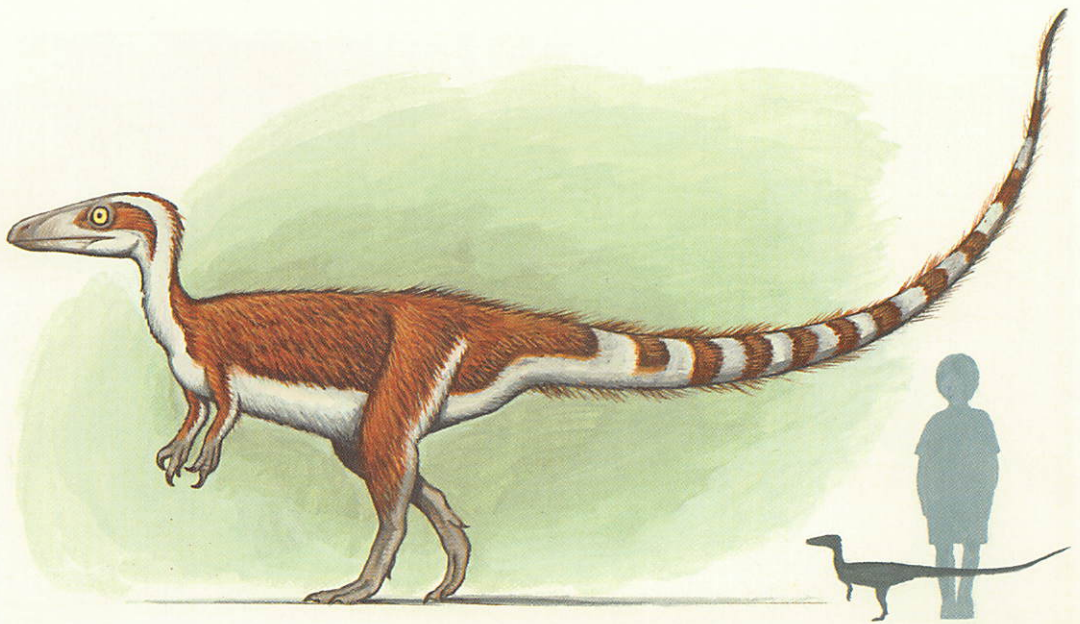
きょうりゅうには、植物を食べるものや、ほかのきょうりゅうをおそって食べる肉食のものなど、いろいろなしゅるいがありました。見た目もさまざまで、体がかたいうろこにおおわれているものもあれば、ふさふさとした羽毛うぶが生えているもの、そのりょうほうをもつものもいました。

ところで、きょうりゅうは、みな大き

15

10

5



化石

古い時代こだいの生物や生物の生活のあとが、地中にのこされたもの。

かったわけではありません。中には、ねこや犬ぐらいの大きさのきょうりゅうもいて、すばやく走り回りながら、とかげやねずみに似た動物などをつかまえて食べていました。これらの小さなきょうりゅうたちにも、羽毛が生えているものがいました。

やがてそれらの中に、木の上でくらすものがあらわれました。木の上なら、地面の上とちがってきにおそわれることも少ないし、えさとなる虫などもたくさんいたからです。

これらのきょうりゅうは、体がかかったので、手あしをバタバタと動かして木に登ることができました。

木の上で生活をはじめたきょうりゅう

15

10

5



たちのしそんは、とても長い年月としつきがたつうちに、木から木へととびうつつてくらすようになりました。

そして、それらのしそんの中には、手あしに生えている羽毛が長くのびて、つばさの形になったものがあらわれたのです。

やがて、空をとべるようになったきょうりゅうたちは、食べ物をもとめて遠くまでとんでいくようになりました。

そのころの地球では、地上を歩く大きなきょうりゅうと、つばさのある小さなきょうりゅうとが、いっしょにえさをとるすがたが見られたことでしょう。

ところが、今から六千六百万年ほど前

15

10

5



のこと、地球の様子が大きくかわり、大きなきょうりゅうのなかまはほとんど死にたえてしまいます。けれども、つばさを持ち、とぶことのできる小さなきょうりゅうのしそんだけは、生きのこりました。そして、これらのきょうりゅうは、今でもすがたをかえて生きているのです。

それが鳥なのです。鳥は、生きのこったきょうりゅうだったのです。

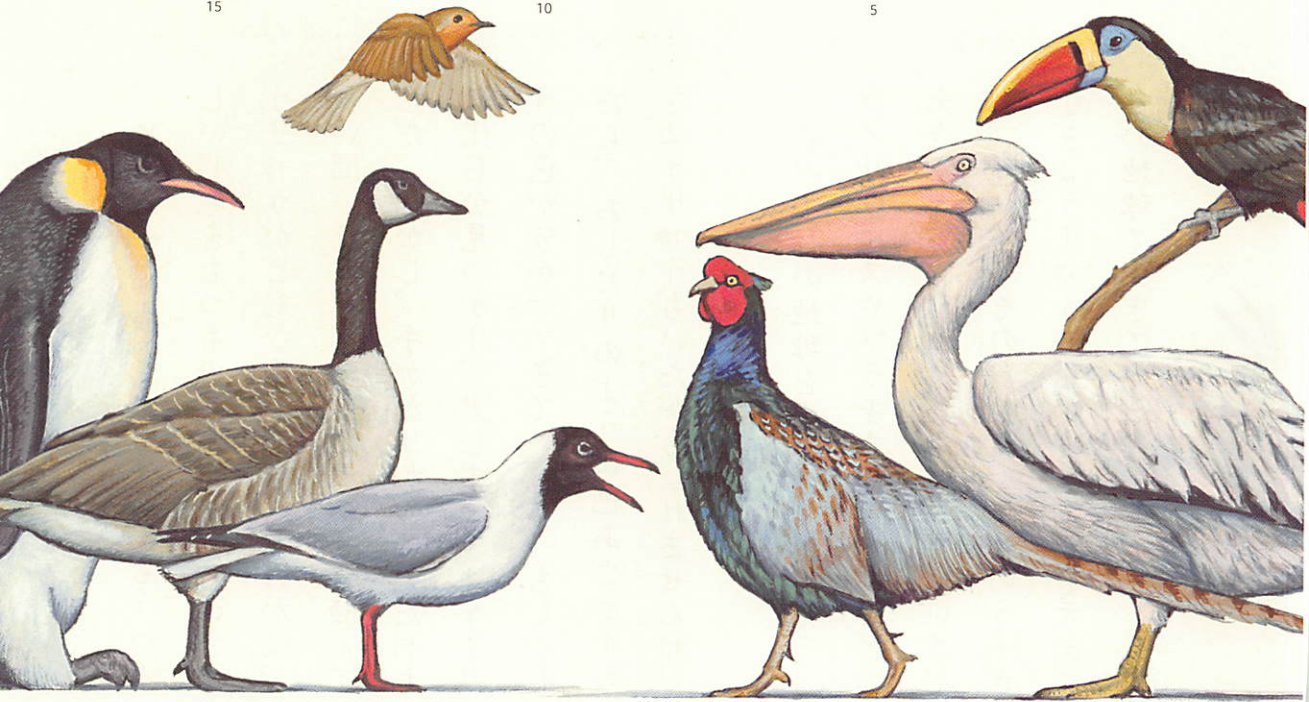
鳥ときょうりゅうとでは、ずいぶんちがっているように見えますね。でも、ほねやあしのつき方など体のつくりをよく調べてみると、とてもにているのです。

大きさはどうでしょう。ほとんどの鳥は、きょうりゅうよりずっと小さな体を

15

10

5



○死しにたえる

しています。なぜ、鳥たちはこのように小さくなったのでしょうか。

それは、空をとぶには小さくてかるい体のほうが都合がいいからです。また、小さければ食べ物も少なくてすみます。小さくなった鳥は、花のみつや草のたねなど、ほんの少しのえさを食べて生きていけるようになったのです。



5

ところで、鳥の中にはとてもうつくしい羽毛をもつものもあります。昔のきょうりゅうがどんな色をしていたのかは、長い間、そうぞうするしかありませんでした。しかし、手がかりがのこった羽毛の化石が見つかり、少しずつきょうりゅうの色が分かってきています。もしかしたら、おしどりのように色あざやかなきょうりゅうもいたかもしれませんね。

昔々大昔の地球を歩き回っていたティラノサウルスやブラキオサウルスなどの大きなきょうりゅうたちは、もういません。けれどもそのかわり、鳥という小さなきょうりゅうのなかまは、今も元気にこの地球で生きています。

15

10

5

ツグウ
都合

おしどり
かものなかまで、おすはうつくしい色の羽をもつ。

ティラノサウルス
全長やく十三メートルになる、大型の肉食きょうりゅう。

ブラキオサウルス
全長やく二十五メートルになる、大型の草食きょうりゅう。



ティラノ
▲
サウルス

植

シヨク
うえる
うわる

集

シユウ
あつまる
あつめる

化

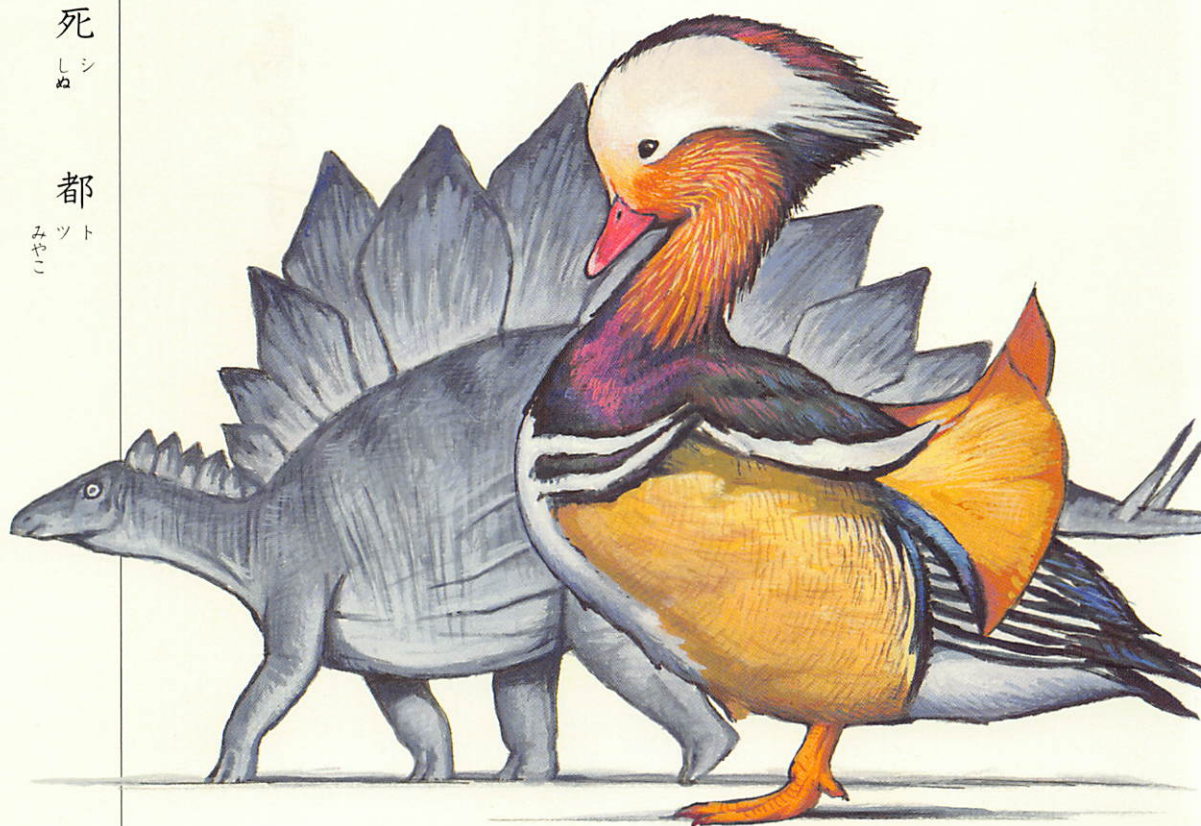
カ
ばける
ばかす

死

シ
しぬ

都

ツト
みやこ



大島 英太郎

一九六一年、栃木
県生まれ。絵本作家。
「羽毛恐竜」などの
作品がある。


156
ページ



詩を味わおう

わたしと小鳥とすずと

金子^{かねこ}
みす^{みす}
ゞ

わたしが両手をひろげても、

お空はちっともとべないが、

とべる小鳥はわたしのよう、

地面^{じべた}をはやくは走れない。



わたしがからだをゆすっても、

きれいな音はでないけど、

あの鳴るすずはわたしののように

たくさんなうたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし、

みんなちがって、みんないい。

5



夕日がせなかをおしてくる

阪田 寛夫
さかた ひろお

夕日がせなかをおしてくる

まっかなうででおしてくる

歩くぼくらのうしろから

でっかい声でよびかける

さよなら さよなら

さよなら きみたち

ばんごはんがまってるぞ

あしたの朝ねすごすな

5

両

リヨウ

負

フ

まける
まかす
おう

夕日がせなかをおしてくる

そんなにおすなあわてるな

ぐるりふりむき太陽に

ぼくも負けずどなるんだ

さよなら さよなら

さよなら 太陽

ばんごはんがまってるぞ

あしたの朝ねすごすな

5

学習

- それぞれの詩について、一連目と二連目をくらべながら読みましょう。
- 「いいな。」と思ったところや、言葉について話しましょう。

5



連

一行空きなどを入れて区切られた、詩の中のまとまり。

↓ 159ページ

この本、読もう
わたしと小鳥と
ずっと



夕日がせなかを
おしてくる



↓ 156ページ



山小屋で三日間すごすなら



みなさんは、子どもたんけんたいとして、山小屋で三日間すごすことになりました。ふだん子どもだけではできないことをして、しぜんとふれ合
うなら、どんな物を持って
いきたいですか。

〈持ち物の決まり〉

- ・ 食料、水
- ・ 着がえ

このほか、グループで五つまで持って
いける。

10

5

ふせんに書き
出してみよう。

バケツ

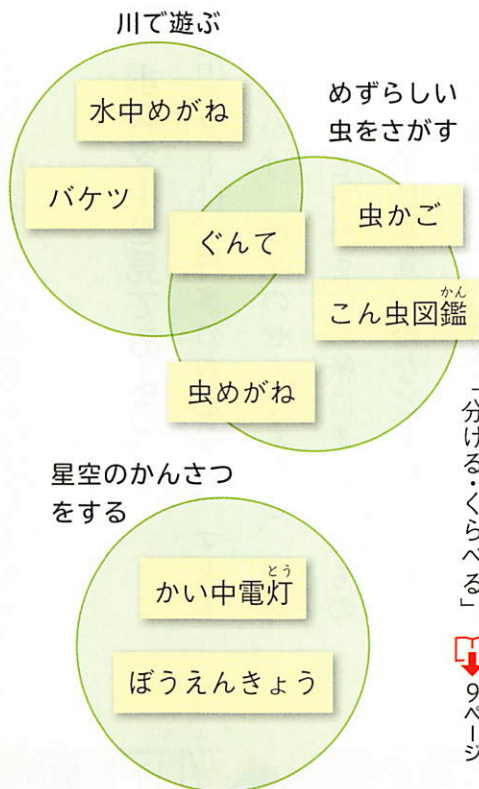
虫かご

みんなであげ
たい虫をさが
したいな。

○ 全員
○ 山小屋
○ 対話タイ

1 グループで、したいことと、持っていきたい物をたくさん出し合ひましょう。そして、出された考えを整理しましょう。

「分ける・くらべる」
9ページ



考えを広げる話し合い

- たいがいの考えをみとめ合ひ、全員で出し合ひ。
- 出された考えを、なかま分けして整理する。

5

2 みんなでしたいことを決めて、グループで持っていくものを五つまでえらびましょう。

「夜にできることもした
いから、そのためには、
。」



考えをまとめる話し合い

- 目的にそつて、大事なことの順番を考へる。
- より多くの人が大事だと考へたものをえらぶ。

話し合ひときは、考えを広げるのか、まとめるのかをはつきりさせて、話し合ひ方を決めましょう。

5



生活の中で読もう

ポスターを読もう

身の回りには、さまざまなポスターがあります。ポスターを読むときには、どんなことに気をつけるとよいでしょうか。

1 ポスターを見てみよう。

ポスターは、行事のあんない、マナーのよびかけ、商品のせんでんなど、知らせたいことを一まいの紙にまとめたものです。言葉と写真、絵などを組み合わせ、人を引きつけるくふうがされています。

▼「ポスターのれい」を見て、くふうしていると思うことを話し合いました。

10

5

知らせたいなよう



ポスターのれい

絵や写真

キャッチコピー

2 ポスターをくらべて読む。

村田さんの住むちいきでは、「コスモス祭り」が行われます。このことを知らせるために、120・121ページの(ア)・(イ)のポスターが作られました。

5

① どちらのポスターのほうが、お祭りに行きたくなりますか。理由とともに、友だちと話しましょう。

(ア)のほうが、行ってみたい
なったよ。それは、――。

ぼくは、(イ)のほうが行き
たくなつたよ。(ア)とくらべ
て(イ)は、――。



② 二つのポスターをくらべて、次のことをノートにまとめましょう。

- どちらにもあること
- どちらかだけにあること
- しめされ方がちがうところ

「分ける・くらべる」
↓ 9ページ

5

③ なぜ、②でまとめたようながいがあるのでしょうか。ポスターが作られた目的^{てき}や、知らせたい相手を考えて、みんなで話し合いましょう。

10

- ポスターを見るときには、言葉と写真や絵のかかりに気をつけて、ないよをとらえる。
- ポスターが作られた目的や、知らせたい相手を考える。

15

写真^{シャシン}

キヤッチコピー

相手を引きつけるようにくふうされた、短い言葉。

↓ 160ページ

祭り^{まつり}



コスモス園に、みんな集まれ

コスモス祭り

10月17日(土)・18日(日)

会場：〇〇市中央公園(コスモス園, 広場)
 もよおし：ショー, 出店, 花火大会 ほか

●広場ステージ・タイムテーブル

17日 土	13:00	〇〇中学校合唱部コンサート
	14:00	〇〇市和だいの会 えんそう
	15:00	てんとうほそん会 祭りばやし
18日 日	10:00	コスモスくんショー
	11:00	写真コンテストひょうしょう式

ほくと
いっしょに
遊ぼう!



〇〇市中央公園

花火大会
 17日(土)
 19:00~

お問い合わせ：〇〇市役所観光係 電話：000(00)0000

写
うっす
うっす
うっす

真
ま
ま

祭
まつり
まつり
まつり

コスモス祭り

ようこそ50万本の世界へ



10月17日(土)・18日(日)

会場 | ○○市中央公園
(○○インターから車で約5分)

もよおし | ショー, 出店, 花火大会 ほか



○○インターチェンジ ○○自動車道路
中央公園前
○○市役所 ○○市中央公園
○○駅 ○○駅

お問い合わせ: ○○市役所観光係 電話: 000(00)0000

へんとつくり

漢字には、右と左の二つの部分に分けられるものがあります。

次の  と  のカードを組み合わせて、あなたが知っている漢字を作ってみましょう。



5

へん

語
詩
調
話

右の漢字は、どれも、二つに分けた左がわに「言」という形があります。ほかにも、左がわに「言」をもつ漢字を集めてみると、「記」「読」などのように、言葉にかん関係のある漢字が多いことが分かります。

「言」のように、漢字の左がわにあって、おおまかな意味を表す部分を、「へん」といいます。「言」は、「ごんべん」といいます。

10

5



関係ケイ

部分ブ

へんには、ほかにも、次のようなものがあります。

木

きへん

- 板 (鉄板・羽子板)
- 柱 (電柱・柱時計)

イ

にんべん

- 休 (休日・夏休み)
- 係 (関係・図書係)

ン

さんずい

- 油 (油田・油絵)
- 港 (開港・港町)

1 「きへん・にんべん・さんずい」のついた漢字は、それぞれ何に関係があるでしょう。

10

5

つくり

漢字の右がわにおかれる部分を、「つくり」といいます。つくりが、おおまかな意味を表すこともあります。

たとえば、「顔」と「頭」の右がわは、どちらも「頁」です。これは、「おおがい」といい、もともと人の頭をえがいた形です。それで、おおがいのついた漢字は、頭部に関係があります。



2 「動」と「助」のつくりは、どんな意味を表しているか、考えてみましょう。

10

5

◆ 時計

- 開港 (開港)
- 油田 (油田)
- 休日 (休日)
- 関係 (関係)
- 電柱 (電柱)
- 羽子板 (羽子板)
- 鉄板 (鉄板)

部
フ

係
ケイ
かか
かり

板
バン
いた

柱
チュウ
はしら

油
ユ
あぶら

港
コウ
みなと

- ⑤ 人名や地名を書くとき、ふつうは、はじめの文字を大文字で書きます。地名などは、全部を大文字で書くこともあります。また、言葉をつなぐしるしとして「-」をつけることもあります。

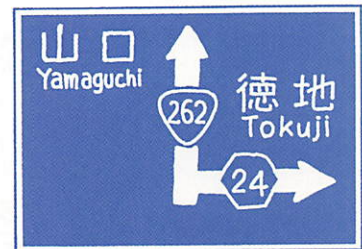
Yamazaki Kenta Inoue Kazuko
TÔKYÔ Kagawa-ken

5

- 3 「し」や「ち」のように、書き方が二つあるものがあります。127ページの表を見て、たしかめましょう。

しま → sima [shima] みち → miti [michi]
つる → turu [tsuru] ふた → huta [futa]

- ▶ わたしたちの身の回りでは、[] 内の書き方が多く使われています。さがしてみましよう。



🌸 いかそう

自分や友だちの名前の読み方をつたえるとき、ローマ字でも書いてみましょう。

今
•夜ヤ

② のばす音は、「おかあさん」→「okâsan」のように、ふつう、a・i・u・e・oの上に「^」をつけて書き表します。

▶ ローマ字で書きましょう。

otôsan

onêsan

おとうさん

おねえさん

おにいさん

5

③ つまる音は、「きっぷ」→「kippu」のように、次に来る音のはじめの文字をかさねて書き表します。

▶ 声に出して読んでみましょう。



kitte



rakko



gakkô

▶ ローマ字で書きましょう。

10

sippo

gakkyû

しっぽ

がっきゅう

なっとう

④ はねる音「ん (n)」の次にa・i・u・e・oやyが来るときは、読みまちがえないように、「n」の後に「'」をつけます。

全員 → zen'in

今夜 → kon'ya



1 127ページのローマ字の表を見てみましょう。

ア行の音は、1字で表されます。

a i u e o
あ い う え お

カ行から下の音は、2字いじょうが組み合わされています。 5

表をたてに見てみましょう。ア段の音には、全部「a」がついています。

ka sa ta na ha ma ya ra wa
か さ た な は ま や ら わ

次に、横に見てみましょう。カ行の音には、全部「k」がついて 10
います。

ka ki ku ke ko
か き く け こ

▶ほかの段や行は、どのように表しているでしょう。

2 ローマ字には、次のような決まりがあります。 15

①「きゃ」「きゅ」「きょ」などの音は、「kya」「kyu」「kyo」の
ように、3字で書き表します。

▶ローマ字で書きましょう。

tyawan densya _____
ちやわん でんしゃ きんぎょ 20

■ローマ字

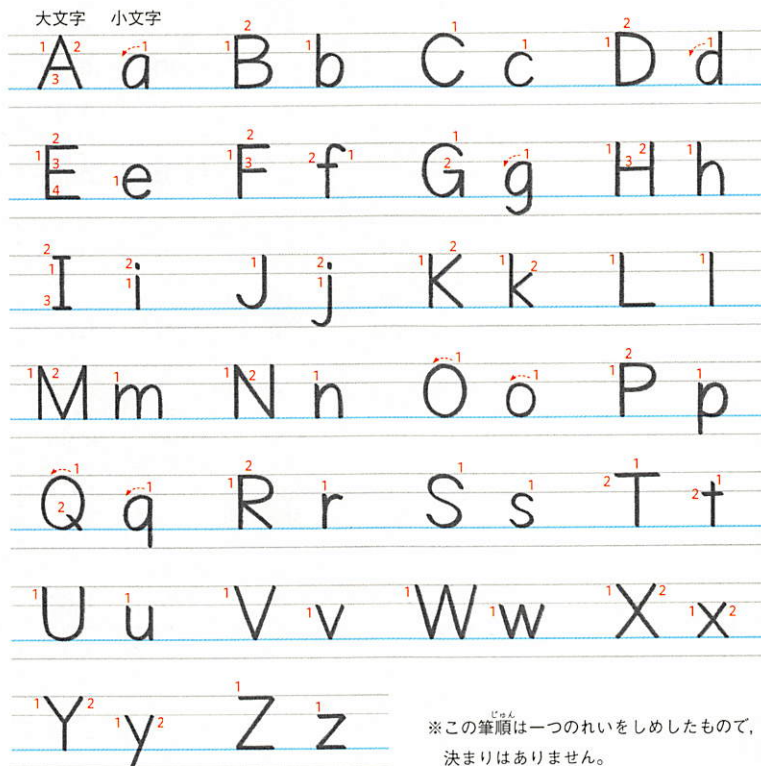
大文字 ／ 小文字	ア段 <small>あ</small>	イ段	ウ段	エ段	オ段			
	A/a	I/i	U/u	E/e	O/o			
ア行	あ a	い i	う u	え e	お o			
カ行 K/k	か ka	き ki	く ku	け ke	こ ko	きゃ kya	きゅ kyu	きょ kyo
サ行 S/s	さ sa	し si [shi]	す su	せ se	そ so	しゃ sya [sha]	しゅ syu [shu]	しょ syo [sho]
タ行 T/t	た ta	ち ti [chi]	つ tu [tsu]	て te	と to	ちゃ tya [cha]	ちゅ tyu [chu]	ちよ tyo [cho]
ナ行 N/n	な na	に ni	ぬ nu	ね ne	の no	にゃ nya	にゅ nyu	にょ nyo
ハ行 H/h	は ha	ひ hi	ふ hu [fu]	へ he	ほ ho	ひゃ hya	ひゅ hyu	ひょ hyo
マ行 M/m	ま ma	み mi	む mu	め me	も mo	みゃ mya	みゅ myu	みょ myo
ヤ行 Y/y	や ya	(い) (i)	ゆ yu	(え) (e)	よ yo			
ラ行 R/r	ら ra	り ri	る ru	れ re	ろ ro	りゃ rya	りゅ ryu	りょ ryo
ワ行 W/w	わ wa	(い) (i)	(う) (u)	(え) (e)	を (o) [wo]			
ン	ん n							
ガ行 G/g	が ga	ぎ gi	ぐ gu	げ ge	ご go	ぎゃ gya	ぎゅ gyu	ぎょ gyo
ザ行 Z/z	ざ za	じ ji [ji]	ず zu	ぜ ze	ぞ zo	じゃ zya [ja]	じゅ zyu [ju]	じょ zyo [jo]
ダ行 D/d	だ da	ぢ (zi) [di]	づ (zu) [du]	で de	ど do	ぢゃ (zya) [dya]	ぢゅ (zyu) [dyu]	ぢょ (zyo) [dyo]
バ行 B/b	ば ba	び bi	ぶ bu	べ be	ぼ bo	びゃ bya	びゅ byu	びょ byo
パ行 P/p	ぱ pa	ぴ pi	ぷ pu	ぺ pe	ぽ po	ぴゃ pya	ぴゅ pyu	ぴょ pyo

[] 中の書き方も使うことができる。() は、かさねて出しているもの。

言葉 ローマ字

日本語は、ひらがな・カタカナ・漢字のほかに、アルファベットのいくつかを使って、書き表すことができます。このような書き表し方を、ローマ字表記といいます。

■アルファベット



5

10



ローマ字表記は、わたしたちの身の回りのさまざまところで使われています。



アルファベット



5UNV

学習しゅうを広げよう

「たいせつ」のまとめ

知りたいことの見つけ方、調しらべ方

手紙の書き方

げんこう用紙の使いつか方

ひらがなとかたかな

本ほんの世界せかいを広げよう

とかげとぞう 工藤直子くどう なおこ

これまでに習ならった漢字かん

この本ほんで習ならう漢字かん

言葉ことばのたから箱ばこ

141

144

148

152

157

130

134

136

138

140





つなげる

話す・聞く

じゅんびする

決める
集める



「たいせつ」のまとめ

この本で学習する、大切なことをまとめています。

- ・たしかめたり、他の学習で使ったりしましょう。
- ・できるようになったことを、どんな場面でいかしたいですか。

くうらんに書きましょう。

話を聞いて、しつもんする

- 話す人の方を見ながら聞く。
- 話のないようや、自分が知りたいことをはっきりさせる。
- 知りたいことについて、どのようにしつもんするとよいかを考える。

43ページ



こんな場面でいかそう

つなげる

書く

組み立てる

決める
集める

あんないの手紙を書く

〈ないようについて〉

- 相手^{あひ}が来るためにひつようなことを考える。
- 来てほしい気もちをつたえる。

〈書き方について〉

- ていねいな言葉^{ことば}を使い、文字を正しく書く。

組み立てを考えて、ほうこくする文章^{しやう}を書く

 96ページ

- つたえたいことを、ないようのまとまりに分ける。
- 分かったことと考えたことをくべつして書く。
- 分かりやすい絵やしやしんを使う。



10

5

 63ページ

 こんな場面でいかそう

せつめいする文章 しやう

段落とその中心をとらえる だんらく

 58ページ

● 文章は、「はじめ」「中」「おわり」などの大きなまとまりに分けられる。大きなまとまりは、一つ、またはいくつかの段落でできている。

● 一つの段落には、それぞれ、ひとまとまりのないようが書かれている。

● 「問い」と「答え」に気をつけると、文章全体の組み立てや、段落の中心をとらえることができる。

物語 ものがたり

場面のようすや、登場人物の気持ちをしらべよう めん

 28ページ

つぎのような言葉に気をつけて、ようすや気持ちをそうぞうする。

- したことをあらわす言葉
- 言ったことをあらわす言葉
- 気持ちをあらわす言葉

15



10

5

〈物語〉

 こんな場面でいかそう

〈せつめいする文章〉



登場人物のへんかに気をつけて読む

 84ページ

登場人物がかわっていく様子を、次のようにしてたしかめる。

- どんな出来事がおこったか。
- そのときの登場人物の気持ちや様子は、どのような言葉に表れているか。
- 出来事がおこる前と後とで、登場人物はどうか変わったか。

読書

図鑑や科学読み物を読む

 104ページ

- 図鑑や科学読み物は、とり上げる物事について、絵やしゃしん、図などを使ったり、くわしくせつめいしたりして、分かりやすく書かれている。
- 図鑑や科学読み物で何かを調べるときは、目次やさくいんを使うとよい。

〈読書〉

知りたいことの見つけ方、調べ方

決めよう

1 調べたいことを見つけよう

次の手順で調べたいことを見つけましょう。

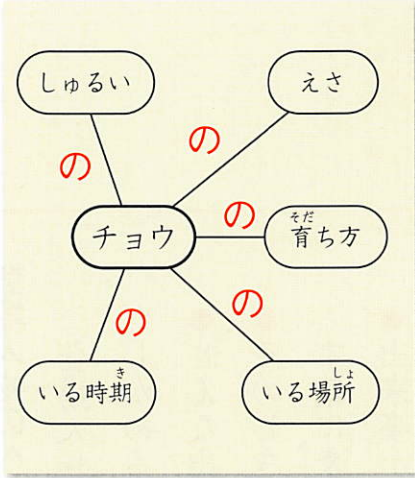
- ① 大きなテーマを考える。
- ② その中でも、とくに知りたいことを考える。

つないで考える

チョウについて
調べたいな。



5



真ん中に大きなテーマを書き、「の」につづくものをむすびつけていきます。
〈れい〉 チョウ「の」いる場所

あつ 集めよう

3 調べよう

「答え」を見つけるための調べ方を考えましょう。調べても分からないことがあるときは、調べ方を見直しましょう。

計画を立てて、
始めよう。



本で調べる【図書館】

くわしい人にきく

チョウはどんなところに
いるのですか。

どのたなを見
ればいかなあ。



「図書館たんでいだん」

30ページ



5

2 「問い」を作ろう

調べたいことが決まったら、「問い」の形にしましょう。知りたいことに、次のような言葉を組み合わせると、「問い」ができてきます。

- どのような（方法・仕組み）
 - どんな（形・せいしつ・はたらきなど）
 - いつ・どこで（時・場所）
- 〈れい〉

チヨウのいる場所はどこか。

チヨウのいる場所は——。



10

5

この本をどう読めばいいんだろう。



「はじめて知ったことを知らせよう」

100ページ

調べたことを取り出す



モンシロチヨウは、日当たりのよい場所がすきなんだ。

ないよのまともりで分けよう。

「分ける・くらべる」

9ページ

調べたことを整理する

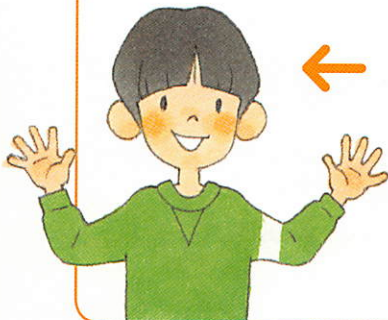
40ページ

「もっと知りたい、友だちのこと」

チヨウのしゅるいによって、いる場所がちがうのですよ。



チヨウのいる場所のところが分かったよ。



手紙の書き方

はがきで書くとき


はがきは、ふうとうに入れる手紙（ふうしょ）よりも、気軽な手紙です。

ただし、ふうとうは大きさが決まっています、書けるりょうがふうしょよりも少なくなります。大事なことを落とさないようにしましょう。

5

はじめのあいさつ	本文	むすびのあいさつ	後づけ
----------	----	----------	-----

高村先生、お元気ですか。ぼくは元気です。
五月三十日（土）の午前九時から、ひかり小学校で運動会があります。
ぼくは、八十メートル走のれんしゅうをがんばっています。
ぜひ、見に来てください。
五月十二日



森川そなた

運動会
八十メートル走

あて名の書き方

相手の住所

右がわに書く。二行になるときは、区切りのよいところで行をかえる。

相手の名前

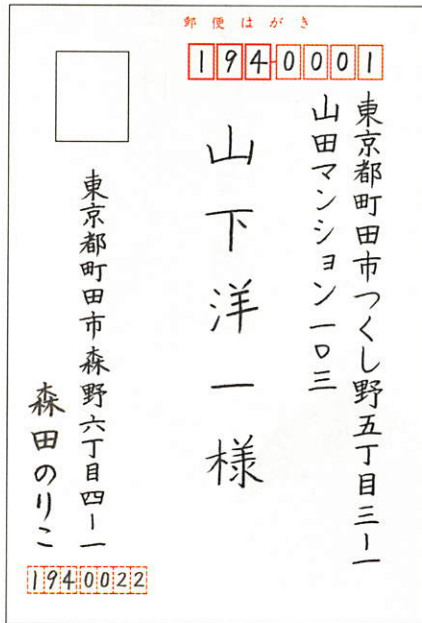
中央に、少し大きめに書く。会社や団体に出すときには、「様」の代わりに「御中」と書く。

自分の住所と名前

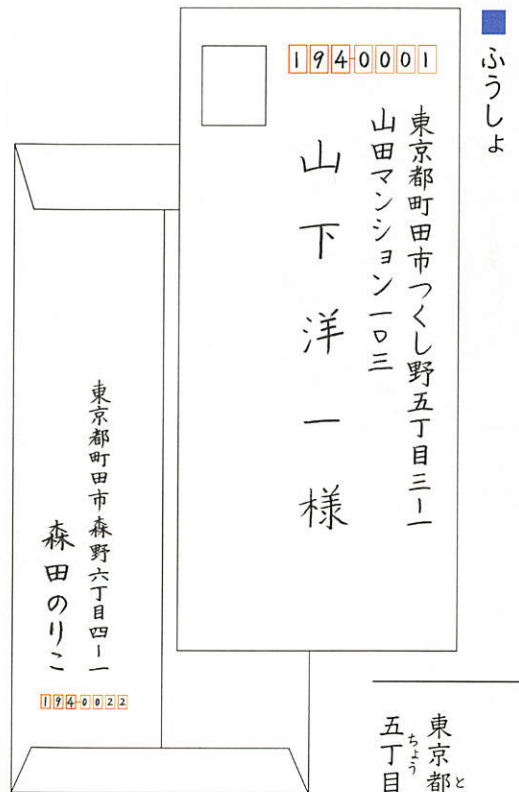
はがきの場合は切手の下に、ふうしよの場合はふうとうのうらに書く。相手の住所や名前より小さめの字で書く。

10

5



はがき



げんこう用紙の使い方つか

げんこう用紙に書くときには、書き方に気をつけましょう。

文章しやうを書き終おわったら読み返かえして、まちがっているところや

分わかりにくいところがあれば、直ただしましょう。

題名だいは、はじめの行に、上から二、三ます空けて書く。

5

○ ○ ○ 足もとのどうぶつたち

上田 はると

○ 日曜日に、お母さんとおにいちゃん、遠

くすむおばあちゃんに会いに行きました。

書き始めはじめは、一ます空ける。

句点く（。）や読点とう（、）は、一ますに書く。



長い文を分ける、言葉の重なりをなくす、言葉が足りないところをおぎなうなどして、整える。

見に行きました。

どうぶつのしゃしんがついているか、走って

と言いました。ぼくとおにいちゃんは、何の

おにいちゃんが

「あっちにもあるみたいだよ。」

ダのしゃしんがついていました。見ていると

○ぼくが見つけたふたには、色のついたパン

その

たマンホールのふたを見つけました。

わたら、ぼくは、どうぶつのしゃしんがつい

そこで

そして、みんなでいっしょにどうぶつ園に行

●行きました。

話した言葉は、かぎ(「」)をつけて書く。
言葉の終わりの句点とかぎ(。)は、一ますにいっしょに書く。

10

句点や読点が行のはじめに來ないように、前の行のいちばん下のますに、文字といっしょに書く。(ますの下に書くこともある。)

5

行をかえたら、一ます空ける。

ひらがなとかたかな

ぱばだざが
 びびぢじぎ
 ぶぶづずぐ
 ぺべでぜげ
 ぽぽどぞご

15

んわらやまはなたさかあ
 (い)り(い)みひにちしきい
 (う)るゆむふぬつすくう
 (え)れ(え)めへねてせけえ
 をろよもほのとそこお

10

5

すうじ | (のばす音)
 きつて | (つまる音)

ぴ	び	じ	ぎ	り	み	ひ	に	ち	し	き
や	や	や	や	や	や	や	や	や	や	や
ぴ	び	じ	ぎ	り	み	ひ	に	ち	し	き
ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ	ゆ
ぴ	び	じ	ぎ	り	み	ひ	に	ち	し	き
よ	よ	よ	よ	よ	よ	よ	よ	よ	よ	よ

15

10

5

ぱバダザガ
 ぴビヂジギ
 ぷブヅズグ
 ぺベデゼゲ
 ぽボドゾゴ

15

ンワラヤマハナタサカア
 (イ)リ(イ)ミヒニチシキイ
 (ウ)ルユムフヌツスクウ
 (エ)レ(エ)メヘネテセケエ
 ヲロヨモホノトソコオ

10

5

スー | (のばす音)
 カッ | (つまる音)

ピ	ビ	ジ	ギ	リ	ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ
ャ	ャ	ャ	ャ	ャ	ャ	ャ	ャ	ャ	ャ	ャ
ピ	ビ	ジ	ギ	リ	ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ
ュ	ュ	ュ	ュ	ュ	ュ	ュ	ュ	ュ	ュ	ュ
ピ	ビ	ジ	ギ	リ	ミ	ヒ	ニ	チ	シ	キ
ョ	ョ	ョ	ョ	ョ	ョ	ョ	ョ	ョ	ョ	ョ

15

10

5

国語辞典で言葉(ことば)を調べるときや、ローマ字の学習(しゅう)をするときに、五十音のならば(じゆん)順をたしかめましょう。

本の世界を 広げよう



島ひきおに

山下明生文
梶山俊夫絵

ひとりぼっちのおには、人間といっしょにくらしたくて、島を引っぱって引っこしを始めました。



いのちのいれもの

小菅正夫文
堀川真絵

トコちゃん、動物園で動物を見ているうちに、命はどこから来て、死ぬとどこに行くのだろうとふしぎに思いました。



としよかんライオン

ミシエル・ヌードセン作
ケビン・ホークス絵
福本友美子訳

ある日、図書館にライオンがやって来ました。ライオンが図書館に入っけけないという決まりはありません。



ドングリ山のやまんばあさん

富安陽子作
大島妙子絵

ドングリ山に住むやまんばあさんは、オリンピックせんしゅより元気な二百九十六さい。会いに行ってみましょう。

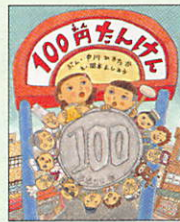
ものがたり 物語・絵本



どんなかんじかなあ

中山千夏文
和田誠絵

友だちのまりちゃんは、目が見えません。目が見えないってどんな感じかなあ。ぼくは、目をつぶって考えてみました。



100円たんけん

中川ひろたか文
岡本よしろう絵

百円あったら、どんなものがどれくらい買えるのでしょうか。いろいろなお店や場所を回って、調べてみました。



どうぶつがっこう

トビイルツ作・絵

ここは先生が動物の学校です。「自分」を「研究」して、たくさんとくちょうを見つけてるのが勉強です。



ココロ屋

梨屋アリエ作
菅野由貴子絵

先生におこられてはっかりのぼく。自分のココロを、みんなにすかれるべつココロに入れかえられたらいいのに。

科学・ちしき

こころのふしぎ
たんけんえほん

平木典子 監修



うれしい、ドキドキなど、いろいろな気持ちが生まれる心。どうして気持ちが生まれるのか、心のふしぎをたんけんしましょう。

一生の図鑑



動物や植物は、それぞれ何年くらい生きるのでしょうか。生き物の生活とじゅみようが分かる図鑑です。

ラポラポラ

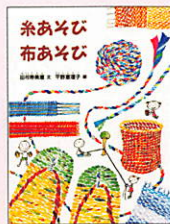
ふくだゆきひろ 写真・文



「ラポラポラ」は、森にすむようせい。わたしは、ラポラポラをさがしに、森へ出かけました。

糸あそび
布あそび

田村寿美恵文
平野恵理子 絵



服もタオルも、糸と布とできています。糸と布で、いろいろなものを作ってみませんか。

むし歯のもんだい

北川原健
柳生弦一郎



なぜ、むし歯になるの。なぜ、歯みがきしなければいけないの。「むし歯」について、分かりやすく教えてくれます。

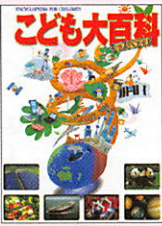
数え方のえほん

高野紀子 作



ホットケーキが「一まい」、
「二組」、「二切れ」。同じ物でも、形がかわれば、数え方がかわります。

子ども大百科
キッズペディア



身近なものからうちゅうまで、ふしぎに思ったことをなんでも調べてみましょう。図や写真でくわしく分かります。

たまごのはなし

ダイアナ・アストン文
シルビア・ロング 絵
千葉茂樹 訳



丸くて白いのばかりがたまごじゃありません。いろいろなたまごがあります。ふしぎなたまごの世界へようこそ。

もっと・しごとば

鈴木のりたけ



花火師やパン職人など、九つの仕事について、仕事場や道具、どんな仕事をするのかを教えてください。

ともだち



友だちって、どんな人のことでしょうか。友だちがいるとできることって、何でしょうか。あなたにとって友だちとは――。

谷川俊太郎 文
和田誠 絵

ぞうのミニカキ



まど・みちお 詩
フリッブリーヴイダレン 写真
コップ、くつ下、安全ピン。これは、ありふれた「物」たちの詩集です。はさみやペンチにも、物語があるのです。

あるひあひるがあるひいると



「ある日あひるが歩いてると――」。そう。全部の言葉に「あ」のつくお話です。あいうえおを使った五つのお話。

二宮由紀子 作
高島純 絵

読書ゆうびん

おもしろかった本をはがきなどに書いて、友だちと知らせ合いましょう。読んでみたい本は見つかるでしょうか。



〈れい〉



「ぞうのミニカキ」
(まど・みちお 詩)
まどさんの詩を読むと、身の回りの物がちがって見えてくるよ。ぜひ一度読んでみて。

本のクイズカード作り

本を読んではじめて知ったことや、友だちに教えたことを問題にして出合いましょう。



〈れい〉

問題

きのこは、どうやってふえるでしょうか。

答え

の分かる本
「きのこ」 壇沙萌 写真・文



チャレンジ読書

どんな本を、どれぐらい、どのように読むか、自由にもくひようと計画を立て、読書を楽しみましょう。



〈れい〉

ぼくのチャレンジ

3年1組 山田りゅうた

もくひょう

- 教科書の「本の世界を広げよう」にある本を、10さつ以上読む。
- 読んだ本を、おもしろかったじゆんに、みんなにしようかいる。

計画

- 4月～7月 読書
- 8月 じゆんぴ
- 9月 しようかいる

読み終わった本には、□にするしをつけましょう。

とかげとぞう

工藤 直子 作

佐野 洋子 絵

▼ 次の中からかだいをえらんで、取り組みましょう。

- 登場人物と、物語の中で起こったことを、整理しましょう。
- 物語の中で起こったことについて、登場人物はどんな気持ちになったでしょうか。したことや言ったことからそうぞうしましょう。
- 物語を読んで思ったことを、友だちと話ししましょう。

とかげは夕日が好きです。

夕日が、地平線にくるくるとしずんでいくのを、目を細くして見るのが好きです。

ある夕方、とかげが石けりをして遊んでいると、地面のすなつぶが、いつせいに、ぽっと光をともしました。

「あら、ま。」

地平線
地面のはてと空が
せつしたように見える線。

太陽から来た たくさんさんの光の糸が、たくさんさんのすなつぶにつながったのです。

とかげは西の空を見上げて、びっくりしました。

「今日の夕日は、とくべつ上等。」

地平線に向かって、ずんずんずんとしずむ夕日のりっぱさときたら、木のこずえや、空の雲が、ははあっ、とおじぎをしたほどです。

「すごいや。今日の夕日は、友だちと二人で見ると、ぴったりな夕日だね。」

とかげは、友だちのぞうのところへ走って行って、二人で夕日を見ました。

ぞうは、鼻をまいて、

「ほほう。」

と、夕日を見ます。

とかげは、はらばいになって、目を細くして、

「ほほう。」

と、夕日を見ます。

二人で、何度も、

「ほほう。」

「ほほう。」

と言っているうちに、夕日は、ずんずんずんと地平線に、下り立ちました。それから、しずかにすがたを消していきます。

そのとき、とかげの「ほほう。」が「ほう。」になり、さいごに「ほ。」とため息を吐きました。ぞうが

「どうしたの。」

ときくと、

「もう、しずんじゃうね、いなくなるね。今日の夕日は、もう、おしまいだね。」
とざんねんそうです。

ぞうが、せのびをして地平線を見ると、まだ、ちびつとですが、夕日の赤いかけらがのぞいていました。

「早く、早く。ぼくの頭に、上ってごらん。見えるから。」

とかげは、大急ぎでぞうの鼻をかけたのぼり、頭のとっぺんでせのびして、夕日

のかけらをながめました。

せのびしたぞうと、そのぞうの頭のとっぺんで、せのびしたとかげとに、夕日のさいごの光の糸が、ぴかりとつながりました。



工藤 直子

一九三五年、台湾に生まれる。詩人、作家。「のはらうた」「ともだちは海のおい」などの作品がある。

これまでになら 習った漢字

△は、これから習う読み方。()は、小学校では習わない読み方。

□ ₂ 雲 ⑫ くも △ウン	□ ₁ 雨 ⑧ あめ △ウ	□ ₂ 羽 ⑥ はね △(ウ)	□ ₁ 右 ⑤ みぎ △エウ	う	□ ₂ 引 ④ ひく △イン	□ ₁ 一 ① ひとつ △イツ	い	□ ₂ 夏 ⑩ なつ △カ	—チェックらん —学年 —漢字 —画数 —読み方											
□ ₁ 下 ③ ゲカ	□ ₁ 音 ⑨ ね △イン	□ ₁ 王 ④ オウ	か	□ ₂ 遠 ⑬ とおい △エン	□ ₂ 園 ⑬ その △エン	□ ₁ 円 ④ まるい △エン	え	□ ₂ 海 ⑨ うみ △カイ	□ ₂ 会 ⑥ あひ △カイ	□ ₂ 回 ⑥ まわす △(エ)カイ	□ ₂ 画 ⑧ ガク	□ ₂ 歌 ⑭ うた △カ	□ ₂ 家 ⑩ いえ △ケカ	□ ₂ 夏 ⑩ なつ △(ケ)カ	□ ₂ 科 ⑨ カ	□ ₁ 花 ⑦ はな △カ	□ ₂ 何 ⑦ なに △(カ)	□ ₁ 火 ④ ひ △(ホ)カ		
□ ₂ 岩 ⑧ いわ △ガン	□ ₂ 丸 ③ まる △ガン	□ ₂ 間 ⑫ あいだ △ケン	□ ₂ 活 ⑨ カツ	□ ₂ 楽 ⑬ たのしい △ラク	□ ₁ 学 ⑧ まなぶ △ガク	□ ₂ 角 ⑦ かど △カク	□ ₂ 外 ⑤ ほか △(ケ)ガイ	□ ₁ 貝 ⑦ かい	□ ₂ 絵 ⑫ エ △カイ	□ ₂ 京 ⑧ きょう △キョウ	□ ₂ 魚 ⑪ うし △ギョ	□ ₂ 牛 ④ うし △ギウ	□ ₁ 休 ⑥ やすむ △キユウ	□ ₂ 弓 ③ ゆみ △(キユウ)	□ ₁ 九 ② この △キウ	□ ₂ 帰 ⑩ かえる △キ	□ ₂ 記 ⑩ しるす △(キ)	□ ₂ 汽 ⑦ キ	□ ₁ 気 ⑥ け △ケキ	□ ₂ 顔 ⑮ かお △ガン
□ ₂ 兄 ⑤ あに △(ケイ)キョウ	け	□ ₁ 空 ⑧ から △クウ	く	□ ₁ 金 ⑧ かね △キン	□ ₂ 近 ⑦ ちかい △キン	□ ₁ 玉 ⑤ たま △ギョク	□ ₂ 教 ⑪ おしえる △キョウ	□ ₂ 強 ⑪ つよ △(ゴウ)キョウ	□ ₂ 戸 ④ と △コ	こ	□ ₂ 原 ⑩ はら △ゲン	□ ₂ 言 ⑦ こと △ゲン	□ ₂ 元 ④ もと △ゲン	□ ₁ 見 ⑦ みる △ケン	□ ₁ 犬 ④ いぬ △ケン	□ ₁ 月 ④ つき △ゲツ	□ ₂ 計 ⑨ はかる △(ハ)ケイ	□ ₂ 形 ⑦ かたち △(ケイ)キョウ		

□ 2 ⑤ 広 △コウ ひろい ひろまる ひろめる ひろがる ひろげる	□ 2 ④ 公 △コウ (おおよげ)	□ 2 ③ 工 △ク コウ	□ 1 ③ 口 △△コウ くち	□ 2 ⑭ 語 △△コウ かたる かたらう	□ 2 ⑨ 後 △△コウ のち うしろ あと (おくれる)	□ 2 ④ 午 ゴ	□ 1 ④ 五 △△コウ いつ いつつ	□ 2 ⑤ 古 △△コウ ふるい ふるす
---	--------------------------------	---------------------------	-----------------------------	--------------------------------------	--	--------------------	------------------------------------	-------------------------------------

□ 2 ⑪ 黄 △△コウ (キ)	□ 2 ⑩ 高 △△コウ たかい たかまる たかめる	□ 1 ⑩ 校 コウ	□ 2 ⑥ 行 △△コウ ギョウ (アン) ゆく いく △△コウ おこなう	□ 2 ⑥ 考 △△コウ かんがえる	□ 2 ⑥ 光 △△コウ ひかる ひかり	□ 2 ⑥ 交 △△コウ まじわる まじる まじえる まざる まぜる (かわす)
------------------------------	--	---------------------	--	--------------------------------	-------------------------------------	---

□ 1 ③ 三 △△コウ みつ	□ 2 ⑦ 作 △サク つくる	□ 2 ⑪ 細 △△サイ ほそい ほそまる △△コウ こまかい	□ 2 ③ 才 サイ	□ 1 ⑤ 左 △△サ ひだり	□ 2 ④ 今 △△コン いま	□ 2 ⑪ 黒 △△コク くろい	□ 2 ⑧ 国 △△コク くに	□ 2 ⑦ 谷 △△コク たに	□ 2 ⑥ 合 △△コウ ガッ あわす あわせる
-----------------------------	-----------------------------	--	---------------------	-----------------------------	-----------------------------	------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	--

□ 2 ⑥ 寺 △△ジ てら	□ 1 ⑥ 字 △△ジ (あじ)	□ 2 ⑩ 紙 △シ かみ	□ 2 ⑨ 思 △△シ おもう	□ 2 ⑧ 姉 △△シ あね	□ 1 ⑥ 糸 △△シ いと	□ 2 ⑤ 矢 △△シ や	□ 2 ⑤ 市 △△シ いち	□ 1 ⑤ 四 △△シ よん よつ	□ 2 ④ 止 △△シ とまる	□ 1 ③ 子 △△ス こ	□ 2 ⑭ 算 △△サン サン	□ 1 ③ 山 △△サン やま
----------------------------	------------------------------	---------------------------	-----------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------	----------------------------	----------------------------------	-----------------------------	---------------------------	-----------------------------	-----------------------------

□ 1 ② 十 △△ジュ と	□ 2 ⑪ 週 △シユウ ジュウ	□ 2 ⑨ 秋 △△シユウ あき	□ 2 ⑨ 首 △△シユ くび	□ 1 ④ 手 △△シユ て	□ 2 ⑩ 弱 △△シヤク よわい よわる よわまる よわめる	□ 1 ⑦ 車 △シヤ くるま	□ 2 ⑦ 社 △△シヤ やしろ	□ 2 ⑨ 室 △△シツ (むろ)	□ 1 ② 七 △シチ なな	□ 2 ⑩ 時 △ジ とき	□ 2 ⑥ 自 △△ジ みづから	□ 1 ⑥ 耳 △△ジ みみ
----------------------------	------------------------------	------------------------------	-----------------------------	----------------------------	--	-----------------------------	------------------------------	-------------------------------	----------------------------	---------------------------	------------------------------	----------------------------

□ 2 ⑥ 色 △△シヨク いろ	□ 2 ⑫ 場 △△シヨウ ば	□ 1 ③ 上 △△シヨウ (ジョウ)	□ 2 ④ 少 △シヨウ すくない すこし	□ 1 ③ 小 △△シヨウ ちいさい △△コ こ	□ 1 ③ 女 △△シヨ (メ) (おんな) (にょ)	□ 2 ⑩ 書 △シヨ かく	□ 2 ⑨ 春 △△シユン はる	□ 1 ⑤ 出 △△シユツ でる だす
------------------------------	-----------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	--	---	----------------------------	------------------------------	------------------------------------

□ 1 ⑤ 正 △△セイ ただしい △△マ まさ	□ 2 ⑬ 数 △△スウ かず かぞえる	□ 1 ④ 水 △スイ みず	□ 2 ⑦ 囟 △△ズ (はかる)	□ 1 ② 人 △ジン ひと	□ 2 ⑯ 親 △シン おや △△シ したしい	□ 2 ⑬ 新 △△シン あたらしい △△イ にい	□ 1 ⑫ 森 △△シン もり	□ 2 ④ 心 △△シン こころ	□ 2 ⑨ 食 △△シヨク (ジキ) くう たべう
--	-------------------------------------	----------------------------	-------------------------------	----------------------------	---	---	-----------------------------	------------------------------	---

石 ⑤ (コク) △セキ △シヤク
 夕 ③ (セキ) ゆう
 晴 ⑫ △セイ はれる
 星 ⑨ △セイ ほし (シヨウ)
 青 ⑧ △セイ あおい (シヨウ)
 声 ⑦ △セイ こえ (こわ)
 西 ⑥ △セイ にし
 生 ⑤ △セイ いきる (シヨウ) いやす いける うまれる

組 ⑪ △ソ くむ
 そ
 前 ⑨ まえ
 線 ⑮ セン
 船 ⑪ △セン ふね
 先 ⑥ さき
 川 ③ かわ (セン)
 千 ③ △チ セン
 雪 ⑪ △セツ ゆき
 切 ④ (サイ) きる
 赤 ⑦ △セキ あか (シヤク) あかい あからめる

台 ⑤ △ダイ
 大 ③ △ダイ おお
 体 ⑦ △タイ からだ
 太 ④ △タイ ふと
 多 ⑥ △タ おお
 た
 村 ⑦ △ソン むら
 足 ⑦ ソク あし
 草 ⑨ ソウ くさ
 走 ⑦ △ソウ はしる
 早 ⑥ △ソウ はやく (サツ) はやい はやめる

鳥 ⑪ △チヨウ とり
 長 ⑧ チヨウ ながい
 町 ⑦ チヨウ まち
 昼 ⑨ △チュウ ひる
 虫 ⑥ チュウ むし
 中 ④ チュウ なか
 茶 ⑨ (サ) チャ (サ)
 竹 ⑥ △チク たけ
 知 ⑧ △チ しる
 池 ⑥ △チ いけ
 地 ⑥ △チ ち
 男 ⑦ △タン おとこ

電 ⑬ デン
 田 ⑤ △デン た
 点 ⑨ テン
 店 ⑧ テン みせ
 天 ④ テン あま (あめ)
 弟 ⑦ △テイ (デ) おとうと
 て
 通 ⑩ △ツウ とおる (ツ) とおす
 つ
 直 ⑧ △チヨク あただちに (シキ) なおす
 朝 ⑫ △チヨウ あさ

読 ⑭ △トク よむ
 道 ⑫ △ドウ みち
 同 ⑥ △ドウ おなじ
 頭 ⑯ △ズ (カ) あたま (カ) (カ) あたら
 答 ⑫ △トウ こたえ
 東 ⑧ △トウ ひがし
 当 ⑥ △トウ あたる
 冬 ⑤ △トウ ふゆ
 刀 ② △トウ なた
 土 ③ △ド つち
 と

馬 ⑩ △バ うま
 は
 年 ⑥ ネン とし
 ね
 入 ② △ニウ はいれる
 日 ④ △ジツ かひ
 肉 ⑥ ニク
 二 ② △ニ ふたつ
 に
 南 ⑨ △ナン みなみ (ナ)
 内 ④ △ナイ (ナイ) うち
 な

□ ² 風 ⑨ △フウ (フ) かぜ かぜ	□ ² 父 ④ △フ ちち	□ ¹ 百 ⑥ ヒヤク	□ ² 番 ⑫ バン	□ ² 半 ⑤ △ハン ななかば	□ ¹ 八 ② ハチ やっ やっ やっ やっ よう	□ ² 麦 ⑦ △バク むぎ	□ ¹ 白 ⑤ △ハク (ビヤク) しろ しろ しろ しろ	□ ² 買 ⑫ △バイ かう	□ ² 売 ⑦ △バイ うる
---	--------------------------------------	---------------------------------	--------------------------------	---	--	---------------------------------------	---	---------------------------------------	---------------------------------------

□ ¹ 木 ④ △ボク モク	□ ² 北 ⑤ △ホク きた	□ ² 方 ④ ホウ	□ ² 母 ⑤ △ボ はは	□ ² 步 ⑧ △ホ (フ) あるく (フ) あゆむ	□ ² 米 ⑥ △ベイ こめ	□ ² 聞 ⑭ △ブン きこえる	□ ¹ 文 ④ △ブン (モ) ふみ (モ) モン	□ ² 分 ④ △ブン わける わかる わかつ
---------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------	--------------------------------------	--	---------------------------------------	---	---	--

□ ² 毛 ④ △モウ け	□ ² 鳴 ⑭ △メイ なく なる ならず	□ ² 明 ⑧ △メイ あかるい あかり あかるい あからむ あからむ あからむ あからむ	□ ¹ 名 ⑥ △メイ な	□ ² 万 ③ △マン (バン)	□ ² 妹 ⑧ △マイ いもうと	□ ² 毎 ⑥ マイ	□ ¹ 本 ⑤ △ホン もと
--------------------------------------	--	--	--------------------------------------	---	---	--------------------------------	---------------------------------------

□ ² 理 ⑪ リ	□ ² 里 ⑦ △リ さと	□ ² 来 ⑦ ライ くる きたる きたす	□ ² 曜 ⑱ ヨウ	□ ² 用 ⑤ △ヨウ もちいる	□ ² 友 ④ ユウ とも	□ ² 野 ⑪ △ヤ の	□ ² 夜 ⑧ △ヤ よる	□ ² 門 ⑧ △モン (かど)	□ ¹ 目 ⑤ △モク (ボク) (ま)
-------------------------------	--------------------------------------	--	--------------------------------	---	--------------------------------------	-------------------------------------	--------------------------------------	---	---

□ ² 話 ⑬ ワ はなす はなし	□ ¹ 六 ④ ロク むい むつ むつ	□ ¹ 林 ⑧ △リン はやし	□ ¹ 力 ② △リョク ちから	□ ¹ 立 ⑤ △リツ (リュウ) たてる たつ
---	--	--	---	--

この本で習う漢字

() は、小学校では習わない読み方。

15 商 11画	13 習 11画	12 詩 13画	12 詩 13画	15 物 8画	15 動 11画
シヨウ あきなう 商売 商 商 商 商 商 商	シユウ なろう 学習 習字 ピアノを習う	シ 詩詩詩詩詩詩詩 詩を楽しむ	シ 詩詩詩詩詩詩詩 詩を楽しむ	モノ ブツ モツ 動物 書物 物語 物音	ドウ ドウ ウゴク ウゴカス 動物 電車 体
20 葉 12画	19 族 11画	16 開 12画	16 開 12画	23 所 8画	22 実 8画
ハ ヨウ 葉葉葉葉葉葉葉 落葉 葉っぱ 言葉	ゾク 家族 親族	カイ ひらく ひらける あける 開店 道を開ける ふたが開く ドアを開ける	カイ ひらく ひらける あける 開店 道を開ける ふたが開く ドアを開ける	シヨ ところ 場所 人が多い所	ジツ 実 草の実 かきの実
27 事 8画	26 登 12画	24 面 9画	24 面 9画	30 号 5画	30 館 16画
ジ こと 出来事 物事	トウ のぼる 登山 山に登る	メン 地面 場面	メン 地面 場面	ゴウ 番号 記号	カン やかた 図書館 体育館
32 意 13画	32 深 11画	32 使 8画	32 使 8画	図書館 たんてい だん	
イ 意味 意外	シン ふかい ふかまる ふかめる 秋が深まる 交流を深める	シ つかう はしを使う	シ つかう はしを使う		

32 味 8画

味味味味味味味
ミ 意味 地味
あじわう 詩を味わう
あじ お味
あじわう 詩を味わう

32 漢 13画

漢漢漢漢漢漢漢
カン 漢字

32 調 15画

調調調調調調調
チヨウ 調理 体調
しらべる 言葉を調べる
(ととのう)
(ととのえる)

34 由 5画

由由由由由
ユ 由来
ユウ 自由 理由
(ユイ)
(よし)

34 温 12画

温温温温温温温
オン 温度 気温
あたたか 温かな心
あたたかい 温かいあま酒
あたたまる 体が温まる
あたためる 牛乳を温める

34 酒 10画

酒酒酒酒酒酒酒
シユ 日本酒
さけ あま酒
さか 酒屋

34 問 11画

問問問問問問問
モン 問題 学問
とう わけを問う
とい 問いに答える
とん 問屋

34 題 18画

題題題題題題題
ダイ 問題 題名

34 章 11画

章章章章章章章
シヨウ 文章

34 平 5画

平平平平平
ヘイ 平気 水平線
ピヨウ 平等
たいら 平らにする
ひら 平泳ぎ

漢字の音と訓

38 次 6画

次次次次次次次
ジ 次回 目次
(シ)
つぐ 問題が相次ぐ
つぎ 次の日

38 昔 8画

昔昔昔昔昔昔昔
(セキ)
(シヤク)
むかし 昔話

39 表 8画

表表表表表表表
ヒヨウ 発表 表紙
おもて 表どうら
あらわす 書き表す
あらわれる 顔に表れる

39 発 9画

発発発発発発発
ハツ 発音 発表
(ホツ)

39 県 9画

県県県県県県県
ケン 県道

39 有 6画

有有有有有有有
ユウ 有名 所有
(ウ) ある 有る無し

39 氷 5画

氷氷氷氷氷
ヒヨウ 氷山 流水
こおり 氷がとける
(ヒ)

39 秒 9画

秒秒秒秒秒秒秒
ビヨウ 六十秒

39 農 13画

農農農農農農農
ノウ 農家 農作物

39 球 11画

球球球球球球球
キユウ 野球 地球
たま 球をなげる

39 局 7画

局局局局局局局
キョク ゆうびん局

41 決 7画

決決決決決決決
ケツ 決意 決行
きめる 名前を決める
きまる 会場が決まる

もっと知りたい、
友だちのこと

41 整 16画

整整整整整整
セイ 整理 調整
ととのえる形を整える
ととのう 室内が整う

43 相 9画

相相相相相相
ソウ 相談
(シヨウ)
あい 相手 相づち

43 落 12画

落落落落落落
ラク 落葉 落下
おちる 葉が落ちる
おとす はしを落とす

44 着 12画

着着着着着着
チャク 着地 着用
(ジャク)
きる シヤツを着る
きる 上着を着せる
きる 学校に着く
つける エフロンを着ける

44 洋 9画

洋洋洋洋洋洋
ヨウ 洋服 洋食

44 服 8画

服服服服服服
フク 洋服

言葉で遊ぼう
こまを楽しむ

47 遊 12画

遊遊遊遊遊遊
ユウ 遊園地
(ユ)
あそぶ 言葉で遊ぶ

47 全 6画

全全全全全全
ゼン 全体 全部
まったく 全く知らない
すべて 全てを話す

49 短 12画

短短短短短短
タン 短時間 短所
みじかい 短い言葉

50 世 5画

世世世世世
セイ 二十一世紀
セイ 世界中 世間
よ 世の中

50 界 9画

界界界界界界
カイ 世界中

51 横 15画

横横横横横横
オウ 横転
よこ 横書き

52 指 9画

指指指指指指
シ 指名 指定
ゆび 指でつまむ
さす 指ししめす

53 鉄 13画

鉄鉄鉄鉄鉄鉄
テツ 鉄板 鉄分

53 安 6画

安安安安安安
アン 安定 安心
やすい ねだんが安い

53 定 8画

定定定定定定
テイ 安定 一定
ジョウ 三角定規
さだめる 時間を定める
さだまる 型が定まる
(さだか)

55 様 14画

様様様様様様
ヨウ 様子
さま 高村みちる様

「来てください」
気もちをこめて

60 運 12画

運運運運運運
ウン 運動会 運転
はこぶ にもつを運ぶ

61 予 4画

予予予予
ヨ 予定 予想

62 返 7画

返返返返返返
ヘン 返事
かえす 読み返す
かえる ふり返る

62 緑 14画

緑緑緑緑緑緑
リョク 緑茶
(ロク)
みどり 緑色 黄緑

63 送 9画

送送送送送送
ソウ 配送 放送
おくる 手紙を送る

63 住 7画

住住住住住住
ジュウ 住所 住人
すむ 町に住む
すまう 古い住まい

まいごのかぎ

65 感 13画

感感感感感感
カン 感想 感じる

65 想 13画

想想想想想想
ソウ 感想 理想
(ソ)

68 坂 7画	68 向 6画	68 持 9画	67 拾 9画	67 悪 11画	67 具 8画
坂坂坂坂坂坂坂 (ハン) 坂道 上り坂	向向向向向向 コウ 方向 向上 むく 前を向く むける 目を向ける むかう 公園へ向かう むこう 道の向こう	持持持持持持持 ジ 所持品 もつ 人物の気持ち	拾拾拾拾拾拾拾 (シユウ) (ジユウ) ひろう かぎを拾う	悪悪悪悪悪悪悪 アク 悪人 悪用 (オ) わるい きまりが悪い	具具具具具具具 グ 絵の具 道具
89 泳 8画	86 陽 12画	85 区 4画	80 路 13画	75 岸 8画	70 悲 12画
泳泳泳泳泳泳泳 エイ 水泳 遠泳 およぐ 魚が泳ぐ	陽陽陽陽陽陽陽 ヨウ 太陽 陽気	区区区区 ク 区切り 地区	路路路路路路路 ロ 路線 道路 じ 旅路 家路	岸岸岸岸岸岸岸 ガン 海岸 対岸 きし 川岸	悲悲悲悲悲悲悲 ヒ 悲鳴 かなしい 悲しい物語 かなしむ 死を悲しむ
22 身 7画	92 仕 5画	89 申 5画	89 童 12画	89 助 7画	89 練 14画
身身身身身身身 シン 自身 上半身 み 身の回り	仕仕仕仕仕 シ (ジ) つかえる 王に仕える 仕事場	申申申申申 (シン) もうす 申しこみ用紙	童童童童童童童 ドウ (わらべ) 童話	助助助助助助助 ジヨ 助言 たすける 人を助ける たすかる 運よく助かる (すけ)	練練練練練練練 レン 練習 ねる こなを練る
97 式 6画	97 筆 12画	97 去 5画	97 銀 14画	97 終 11画	93 客 9画
式式式式式式式 シキ 入学式	筆筆筆筆筆筆筆 ヒツ 毛筆 筆記 ふで 一筆書き	去去去去去 キヨ 去年 コ 過去 さる 雨雲が去る	銀銀銀銀銀銀銀 ギン 銀行 銀色	終終終終終終終 シユウ 終点 終日 おわる 夏が終わる おえる 食事を終える	客客客客客客客 キヤク (カク) お客様 来客
93 品 9画	93 客 9画	93 品 9画	93 品 9画	93 品 9画	93 品 9画
品品品品品品品 ヒン 商品 作品 しな 品物 手品	品品品品品品品 ヒン 商品 作品 しな 品物 手品	品品品品品品品 ヒン 商品 作品 しな 品物 手品	品品品品品品品 ヒン 商品 作品 しな 品物 手品	品品品品品品品 ヒン 商品 作品 しな 品物 手品	品品品品品品品 ヒン 商品 作品 しな 品物 手品

はじめて知ったことを
知らせよう／鳥になった
きょうりゅうの話

102 植 12画

植植植植植植植
シヨク 植物
うえる 木を植える
うわる 花の植わった庭

102 集 12画

集集集集集集集
シユウ 集合 詩集
あつまる 広場に集まる
あつめる 切手を集める
(つどう)

104 化 4画

化化化化
カ 化石 文化
(ケ) 化
ばける 人に化ける
ばかす 人を化かす

109 死 6画

死死死死死死
シ 死者 生死
しぬ 病気で死ぬ

110 都 11画

都都都都都都都
ト 東京都 都会
ツ 都合
みやこ 住めば都

わたしと小鳥とすずと
夕日がせなかをおしてくる

112 両 6画

両両両両両
リヨウ 両手 両親

115 負 9画

負負負負負負負
フ 勝負
まける 試合に負ける
まかす 言い負かす
おう ぎずを負う

山小屋で
三日間すごすなら

116 対 7画

対対対対対対対
タイ 対話 反対
(ツイ)

116 屋 9画

屋屋屋屋屋屋屋
オク 屋上 屋外
や 小屋 魚屋

117 員 10画

員員員員員員員
イン 全員 店員

ポスターを読もう

118 写 5画

写写写写写
シヤ 写真
うつす 手本を写す
うつる 写真に写る

118 真 10画

真真真真真真真
シン 写真 真実
ま 真つ白 真夏

119 祭 11画

祭祭祭祭祭祭祭
サイ 文化祭
まつる 祖先を祭る
まつり 日本の祭り

へんとつくり

122 部 11画

部部部部部部部
ブ 部分 全部

122 係 9画

係係係係係係係
ケイ 関係
かかる 主語に係る
かかり 図書係

123 板 8画

板板板板板板板
ハン 鉄板 合板
パン 黒板
いた 板の間

123 柱 9画

柱柱柱柱柱柱柱
チュウ 電柱 鉄柱
はしら 柱時計

123 油 8画

油油油油油油油
ユ 油田 石油
あぶら 油絵

123 港 12画

港港港港港港港
コウ 開港 空港
みなと 港町

言葉のたから箱

考えや気持ちをつたえる言葉

人物や出来事についてせつめいするときや、自分の考えや気持ちを書いたり話したりするとき、役立てましょう。

人物を表す言葉

- 陽気
- ほがらか
- がんばり屋
- まじめ
- のんびり
- おとなしい
- 負けずぎらい
- おこりっぽい
- 活発

物や事からの様子を 表す言葉

- 役立つ
- 大切
- ていねい
- はっきりした
- 不十分
- 不便
- あっけない
- あやふや

考え方を表す言葉

- まるで――のよう
- ――と（に）等しい
- ――とことなる
- ――と反対の
- ――とぎやく
- ――のなかま

気持ちを表す言葉

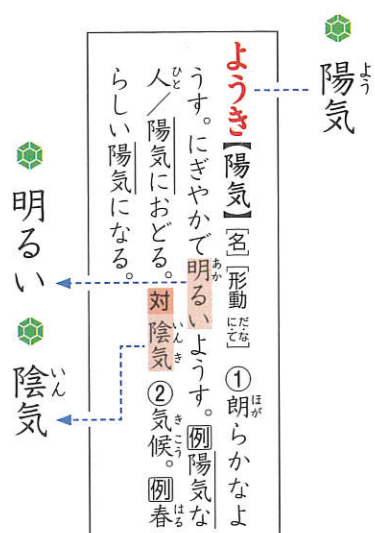
- ◆ さわやか
- ◆ 気分がいい
- ◆ きげんがいい
- ◆ まんぞく
- ◆ 気楽
- ◆ 落ち着く
- ◆ ゆかい
- ◆ 待ち遠しい
- ◆ なつかしい

- ◆ 決意
- ◆ 決心
- ◆ ひっし
- ◆ 本気
- ◆ こうふん
- ◆ びっくりする
- ◆ はんせい
- ◆ あきれる
- ◆ 気分が悪い

- ◆ きんちよう
- ◆ はずかしい
- ◆ はらが立つ
- ◆ かつとなる
- ◆ あせる
- ◆ まよう
- ◆ 不安
- ◆ たいくつ

国語辞典を使う

よく分からない言葉や気になる言葉を、国語辞典で調べてみましょう。意味や使い方が分かるだけでなく、いた意味の言葉や、反対の意味の言葉も見つかりますよ。



ここにある言葉をきつかけに、自分の言葉をどんどん広げよう。

学習に用いる言葉

国語の学習で、よく使われる言葉です。意味や使い方をたしかめて、学習に役立てましょう。

場面

物語の中にあるいくつかのまとまり。時間や場所、登場人物の行動などでひとまとまりになっていることが多い。

登場人物の会話や動き、その場の音や色などを表す言葉に注意すると、場面の様子をくわしくそうぞうできる。

26ページ

段落

文章を組み立てている、事がらごとのないようのまとまり。はじめを一字下げて表す。

読むときは、それぞれの段落で何が書かれているのかを考えると、全体のながいようがとらえやすい。書くときは、ないようごとに段落を分けると、読み手に分かりやすい。

48ページ

問い(問いの文)

せつめいする文章などで、これから何を書くかを、読み手に問いかけるかたちで表した文のこと。

問いの文を見つけると、文章全体で書かれていることを見通すことができる。

48ページ

引用

他の人が言ったことや、本などに書かれていることを、自分の話や文章の中で使うこと。①かぎ「」をつけるなどして、他とくべつする。②元の言葉や文を、そのままぬきだす。③どこから引用したのかをしめす。

〈れい〉

わたしは、^①日本は、^②世界でいちばんこまのしゆるいが多い国だ^③と知って、とてもおどろきました。

(「こまを楽しむ」安藤 正樹より)

他の人の考えを引用することで、自分の話や文章のないようをおぎなうことができる。

91ページ

句読点

文の終わりに打つ句点(。)と、文の中の意味の切れ目に打つ読点(、)とを合わせた言葉。

読点は、主語の後などに打つことで、文を読みやすくしたり、意味を分かりやすくしたりすることができる。

97ページ

さくいん

図鑑などで、その本の中にある言葉や物事が、どのページにあるかを五十音順などでしめしてあるもの。

知りたい事がらが決まっているときにさくいんを使うと、書いてあるページをかんたんにさがすことができる。

103ページ

連

一行空きなどを入れて区切られた、詩の中のそれぞれのまとまり。

一連ごとに様子をそうぞうしたり、連どうして使われている言葉をくらべたりすると、詩の全体がとらえやすい。

115ページ

キャッチコピー

相手を引きつけるようにくふうされた、短い言葉。ポスターや広告など、多くの人が見るものに、問いかげの言葉などを用いて目を引くように使われている。

119ページ

これまでに学んだ言葉

組み立て

「はじめ」「中」「終わり」など、文章や話などが、どのようなまとまりとじゅんじよでできているかということ。

登場人物(人物)

物語に出てくる人のこと。物語の中で、人のように動いたり、考えたりする生き物や物も、登場人物という。

筆者

文章を書いた人。物語や詩などを書いた人である「作者」とくべつして、せつめいする文章を書いた人のことをいうことがある。

話題

話したり話し合ったりするときの、中心となる事から。

編集委員

甲斐陸朗 元国立国語研究所所長
高木まさき 横浜国立大学大学院教授

青山由紀 筑波大学附属小学校教諭
赤木雅宣 ノートルダム清心女子大学教授

阿辻哲次 京都大学名誉教授
池上 彰 秋田大学特別教授
石井睦美 ジャーナリスト
石黒 圭 作家

稲田八穂 国立国語研究所教授
井上一郎 筑紫女学園大学教授
浮田真弓 前京都女子大学教授

岡田博元 岡山大学教授
甲斐雄一郎 お茶の水女子大学名誉教授
鹿毛雅治 お茶の水女子大学附属小学校教諭

慶應義塾大学教授

柱 聖 筑波大学附属小学校教諭

茅野政徳 山梨大学教職大学院准教授
工藤直子 作家
鴻上尚史 作家・演出家

興水かおり 前玉川大学客員教授
佐渡島紗織 早稲田大学教授
達富洋二 佐賀大学教授

田中洋一 東京女子体育大学教授
棚橋尚子 奈良教育大学教授
土山和久 大阪教育大学教授

永池啓子 横浜国立大学講師
中川一史 放送大学教授
中川李枝子 作家

中村桂子 生命誌研究館館長
長谷浩也 環太平洋大学教授
蜂飼 耳 詩人・作家

原田義則 鹿児島大学大学院准教授

藤森裕治 信州大学術研究院教授

細川太輔 東京学芸大学教職大学院准教授
三浦登志一 山形大学術研究院教授
邑上裕子 明星大学客員教授

森 篤嗣 京都外国語大学教授
森山卓郎 早稲田大学教授
吉永幸司 前京都女子大学教授

カラーユニバーサルデザインに関する校閲
市原恭代 工学院大学准教授
NPO法人カラーユニバーサル
デザイン機構(CUD)理事

特別支援教育に関する校閲
佐島 毅 筑波大学准教授

学習のユニバーサルデザインに関する校閲
小貫 悟 明星大学教授

光村図書出版株式会社編集部

国語 三 上 わかば

38光村 国語307 小学校国語科用

年月 日印刷
年月 日発行

(平成三十一年二月二十五日検定済)

定価 文部科学大臣が認可し官報で告示した定価
(右記の定価は、各教科書取次供給所に表示
します。)

この教科書にもとづくワークブック・解説書、
ならびにこれに類するものの無断発行を禁じます。

ISBN 978-4-8138-0068-2

著作者 甲斐陸朗 ほか四十三名別記

発行者 光村図書出版株式会社
代表者 小泉 茂

東京都品川区上大崎二十九

印刷者 協和オフセット印刷株式会社

代表者 嶋 三津夫

東京都港区浜松町一三二一

発行所

光村図書出版株式会社

東京都品川区上大崎二十九

電話 (〇三) 三四九三二二二 (代表)

アート・ディレクション/デザイン 図工室(坂 啓典/近田宏生/堀ノ内達也)
表紙絵 大野八生 とびら詩 まど・みちお とびら絵 原田マサミ
さし絵 浅倉田美子/上垣厚子/神山博光/川口澄子/川崎由紀/川村 易/河原崎秀之/北村 人/斉藤みお/さこうしんじ/
たかおかゆみこ/タラジロウ/Hama-House/原田マサミ/三木麻郁/見杉宗則/ライオスタッフ
書き文字 樋口咲子
写真 青森県黒石市/アフロ/アマナイメージズ/荒川区立汐入東小学校/ZZZ/高宮青志/読書推進運動協議会/長岡博史/読売新聞社

ISBN978-4-8138-0068-2
C4381 ¥00000E



9784813800682



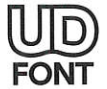
1924381000000

保護者の皆様へ

この教科書は、これからの社会を生きる子どもたちが、言葉に出会う喜びや、人とつながる楽しさを実感しながら、確かな「言葉の力」を身につけることを願って編集したものです。ご家庭においても、この教科書を子どもたちと語り合うきっかけとしてご活用ください。

この教科書は、次のような配慮や工夫をしています。

- カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。
- 児童の学習負担を軽減するよう、本文には書き文字と差異の生じない書体を使用しています。
- 単元名や見出しには、見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています。
- 環境に配慮した紙、植物油インキを使用しています。



この教科書では、学習の参考となる動画などの資料を小社ウェブサイトを用意し、その箇所には二次元コードを示しています。機種やインターネット環境等によってはアクセスできないことがあります。また、通信料が発生する場合があります。読み取れない場合は、下記のURLをご参照ください。



<https://m-manabi.jp/20/qr/k3j/>

この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。



光村図書

三年

組

